

開港都市の未来(あした)を探る 共生する地域文化

開港5都市景観まちづくり会議・神戸大会



開催記録

1999年10月9・10・11日

## 開港5都市景観まちづくり会議・神戸大会

安政の修好通商条約により開港した5都市（函館・新潟・横浜・神戸・長崎）において、身近なまちなみ・まちづくりに取り組む市民団体が、開港都市としての歴史や文化を尊重し、各々の活動を互いに確認しあい、交流を図るために「開港5都市景観まちづくり会議・神戸大会」を開催した。この会議は、平成5年秋、神戸市において第1回の会議がスタートした後、各都市で毎年開催され、会議の成果はそれぞれのまちで活かされてきたと確信する。

本年の神戸大会は、おりしも「居留地返還100周年」の年にあたり、震災から力強く復興する神戸のまちの魅力を広くアピールするとともに、開港5都市のまちづくり関係者をはじめ、広く神戸市民の多数の参加を得、まちの魅力やまちなみ・まちづくりについて考える機会となることを目指したものである。

なお当会議の開催にあたっては、神戸市景観形成市民団体連絡協議会が中心となり実行委員会を組織し準備を進めた。

### 《大会テーマ》

開港都市の未来(あした)を探る =共生する地域文化=

### 《開催日程》

平成11年10月9日(土)・10日(日)・11日(休)

### 神戸大会実行委員会

- (主 催) 神戸市景観形成市民団体連絡協議会  
北野・山本地区をまもり、そだてる会  
旧居留地連絡協議会  
美しい街岡本協議会  
神戸南京町景観形成協議会  
トアロード地区まちづくり協議会  
栄町通周辺まちづくり懇談会  
新長田駅北地区東部いえなみ委員会  
魚崎郷まちなみ委員会  
神戸市都市計画局
- (共 催) 神戸市立博物館  
(社)兵庫県建築士会神戸支部  
神戸・居留地返還100年祭実行委員会
- (後 援) 神戸商工会議所  
神戸新聞社  
NHK神戸放送局

## 開港5都市景観まちづくり会議 神戸大会

10/9	14:00~17:00	<b>1</b> 全体会議 1 (1 ページ) 開会式/参加団体紹介と各都市活動報告/記念講演(大森一樹氏)		
	19:00~21:20	<b>2</b> ウェルカムパーティ (13 ページ)		
10/10	9:30~17:00	<b>3</b> 地域分科会		
		<b>3-A</b> (19 ページ) にぎわいのまちづくり = 歴史的環境と都市活動 (旧居留地周辺)	<b>3-B</b> (26 ページ) まちのアイデンティティ = 居住文化と商業・観光活動 (岡本・魚崎+北野・山本・周辺)	<b>3-C</b> (34 ページ) 勤のまちづくり = 外国文化と産業共生 (トアロード~南京町・周辺)
		<b>4</b> 各都市代表者会議 (38 ページ)		
	18:00~19:00	<b>4</b> 各都市代表者会議 (38 ページ)		
	10:00~16:00	<b>5</b> フリーセッション	<b>5-1</b> こうべまちなみ再発見TOUR (45 ページ)	
	13:30~16:30		<b>5-2</b> 開港場フォーラム (53 ページ)	
19:00~21:30	<b>5-3</b> ライトスケープ KOBE TOUR (57 ページ)			
10/11	10:00~11:30	<b>6</b> 全体会議 2 (61 ページ)		

### 《参加市民団体》

(函館市) 元町倶楽部 (新潟市) サンプロム石山商店街協同組合 新潟の水辺を考える会 新潟花絵プロジェクト実行委員会 新潟あきんど塾 (横浜市) 山手まちづくり協議会 山手西部自治会 横浜中華街発展会協同組合 横浜シティガイド協会	(神戸市) 北野・山本地区をまもり、そだてる会 旧居留地連絡協議会 美しい街岡本協議会 神戸南京町景観形成協議会 トアロード地区まちづくり協議会 栄町通周辺まちづくり懇談会 新長田駅北地区東部いえなみ委員会 魚崎郷まちなみ委員会 (長崎市) 山手地区景観まちづくり協議会 平和公園地域まちづくり協議会
--	---

## □すかんぴんウォーク（吉川晃司主演）

- 関西を舞台にした映画が多い中で、初めて東京を舞台にして撮った、吉川晃司の成功物語。
- 主人公が広島出身で東京にでてくるという設定。
  - ・ 東京にはいるときにどこからはいるかということをいろいろ考えたあげく、東京湾を泳いで築地あたりに上陸するという設定にした。
  - ・ 羽田空港でもなく、東京駅でもなく、海からはいるというコースは、関西人が東京の映画を撮る新しい入口と考えてつくった。
  - ・ 東京という都市を自分なりにどういう風に見ていこうか、また世界的な都市東京をどう撮るかという自分の東京都市論だったと思う。

## □恋する女たち（斉藤由貴主演）

- 原作は氷室冴子で、札幌を舞台とした女子高校生の話。
- 諸事情で、東京に近いところで撮影したいということで、鎌倉を舞台にすることになったのだが、我々関西人から見て鎌倉というまちがあまりおもしろくなく、いろいろ考えた結果、物語はそのままにして札幌の舞台をどっかに移そうということになった。それで、その時思い浮かんだのが、仙台、松本、金沢で、結局金沢で撮影することになった。
- 舞台背景とストーリーがぴたっと一致した。
  - ・ 京都が成熟した女性のまちであるとすると、金沢は成熟前の少女のイメージがあるような気が何となくする。京都ほど落ち着きはないが、ある種の情緒があって、しかも、まだそれが成熟とまでいなくて、何か少女っぽい感じがした。
  - ・ 金沢のイメージがストーリーと見事に合致し、少女の成長物語と金沢という古い都の部分を残しながらも新しくなりそうな予感のあるまちのイメージがうまくいった。

## □テイク・イット・イージー（吉川晃司主演）

- シリーズ3作目で、1作目は東京で撮影し、2作目の「ユー・ガッタ・チャンス」は神戸で撮影していた。
- 映画を撮るときに、舞台をどこにするかということはかなり考える。
  - ・ 漠然と北海道で撮ろうと思っていて、また一応港町がいいのではと思っていたので、釧路から帯広、小樽、札幌、函館とまわり、函館がいいまちで気に入り、また映画にあうような気がしたので、結局函館で撮影することになった。
  - ・ 最後は主人公がニューヨークに旅立ち、ニューヨークを歩いているところで終わるということは決まっており、ニューヨークへ行く前の日本の街として函館が、まちなみや風景がしっくりきた。

## ◆映画をつくる動機・テーマは都市によってかなり左右される◆

## □神戸について

- 私は大阪生まれだが、母親の実家は神戸電鉄の丸山駅前にあり、父親は神鋼病院に勤めており、大阪で生まれたが、何となく神戸の薫りがあって、よく神戸にも連れていかれていた。そのうち、10歳の頃（昭和38年）に芦屋に引っ越して来て以来、ずっとこっちが地場となっている。芦屋の中学を出て、高校は六甲高校で、それから予備校は大道学園に行ったので、その間ずっと三宮に出る機会が多く、映画をよく見に行っていた。その頃は映画館はほとんど三宮で、新開地がすたれてきており、聚楽館の最後ぐらいの時だった。大学は京都に行っても、友達には神戸が多かったので、神戸で飲んだり遊んだりすることが多かった。三宮から元町にかけてが青春の遊び場であった。

## □007は二度死ぬ

### ●映画の出発点

- 1967年の神戸港ロケ。神戸新聞のコラムでロケのことを知り、中学3年だった私はロケを見に行った。
- 当時のロケはのどかで、ガードマンもおらず、ロケの間近まで行くことができた。しかもイギリスのスタッフは大きなアイスボックスにビールやコーラをたくさん入れて、ビーチパラソルを広げてとても楽しそうで、まるで避暑をしているようだった。
- このロケ現場を見て、映画監督になりたいと思った。



## □明日に向かって走れない (1972年)

- 高校時代は体育祭やマラソン大会や文化祭の映画を撮って、浪人時代を経て、大学に入って初めて8mmで撮った長編映画 (35分)。
- ひとりの男が恋人からふられて、お別れの手紙をもらい、その真意を知るべく、ただただ彼女の家まで走っていくという話。走っていく間に神戸を通過していく。
- 8mmで初めて神戸を撮った作品。大丸前で歩行者天国があり、三宮に警察署があった頃である。
- これ以降、自分の遊び場としての神戸 (三宮～元町) が映画の舞台となっていく。
  - 北は山本通、南は海岸通、東はフラワーロード、西は鯉川筋で囲まれたエリア。
  - このエリアが、僕の遊び場としての神戸で、しかも、とても映画的な空間である。



## □神戸の魅力

- このスクエアの一边が30分から1時間で歩ける距離で、この30分から1時間の間に、山から海が見え、海から山が見え、さまざまな港の見え方が楽しめるところが神戸の魅力のひとつである。
- 元町通りの入口である大丸前の交差点は、道路の迫り方が珍しく、スクランブル交差点を初めて見た場所でもあり、最初はどう渡ればよいかわからなかった。

## □暗くなるまで待てない (1974年)

- 「明日に向かって走れない」の2年後に撮った映画。大学生の我々がお金を集めて100万円で作った。
- 神戸を舞台に映画をつくる映画少年の話で、元町交差点から映画が始まる。

## □風の歌を聴け (1981年、村上春樹原作)

- 彼女と一夜をともにした主人公が、元町交差点まで彼女を送っていき、そこで別れるシーンがある。
- まだメリケンパークになっておらず、メリケン波止場があって、南京町が区画整理されていない時期に撮影した作品である。
- 海洋博物館もホテルオークラもなく、陸橋は今でもあるが、現在は建物が建って海は見えなくなったが、当時はあの場所から海が見えたのであり、神戸は港に近かったという感じがする。
- 映画の中で「神戸が日本で一番中国に近いまちだ」というセリフがあり、南京町を出るとすぐ港が見え

ていた当時の神戸で、そういったことを表現したかったのだと思う。

#### □ブラックレイン

- ハリウッド映画で、松田優作、高倉健、マイケル・ダグラスが出演。
- 大阪を舞台にした映画の中に、突如この元町交差点が映る。
  - 大阪中探してもいい場所が見つからず、日本のロケーション担当者が神戸に足をのぼして、監督であるリドリー・スコットを連れて行ったところ、すばらしいということで撮影が決まった。
  - 僕がずっと気になっていたこの摩訶不思議な交差点は、ハリウッドの映画監督にとってもおもしろい、惹きつける場所であった。
  - 人が入れ替わる(スイッチする)場面を、スクランブル交差点という設定を使って非常にうまく処理していると思う。

#### □ユー★ガッタ★チャンス (1985年、吉川晃司主演)

- 歌手である主人公が神戸公演のために、新神戸駅から文化ホールまで芸能レポーターの追跡をかわしながら、走っていくという設定で、僕の遊び場である神戸のエリアを横断させた。

#### □花の降る午後 (1989年、宮本輝原作)

- 神戸市制100周年記念映画。
  - 北野クラブをモデルにしたといわれる北野町のレストランのママである古手川祐子さんとそのレストランを乗っ取ろうとしている桜田淳子さんの女の戦いの映画。
  - 高島政宏演じる東京から来た画家が借りるアトリエを現在ハーバーランドにある煉瓦倉庫で撮影した。当時はハーバーランドは工事中で、煉瓦倉庫も使われていなかった。
- ラストシーン
  - 最後に、このドラマが繰り広げられたエリアを一望しながら、古手川祐子と桜田淳子が和解するのだが、このエリアを一望できる場所はどこかと探した結果、神戸海洋気象台からは僕の言っていた遊び場としての神戸が一望でき、しかも、建物もすばらしい建物だった。
  - しかし、海洋気象台からは北野町が近くには見えないので、兵庫県庁の屋上から北野町の眺望は撮影して差し込んだ。
- 当時、ハーバーランドも六甲アイランドも工事中だったが、1980年の初めにポートアイランドができて以降、僕たちの遊び場のエリアが海の方へどんどん広がってきた。
  - 僕が神戸を撮る映画的な興味が、海の方に新しいものができるたびに神戸のロケーションでそこを撮るようになり、山よりも海の方を撮影することが多くなった。

#### □さよならの女たち (1987年、斉藤由貴主演)

- 神戸のウォーターフロントがどんどん整備されていた時期の作品。
  - 海洋博物館ができたときで、無理矢理ラストのシチュエーションをここの中へもっていった。
  - 12年前のメリケンパーク付近で、ホテルオークラもなく、海洋博物館だけが建っている状況で、最後のロングショットは神戸大橋の上から撮っているのだが、今見るともっと灯りが多くなっている。あの当時は、暗闇に浮かぶ波をイメージした建物だなと思い、ものすごくきれいだった。

#### □大失恋 (1995年)

- 六甲アイランドで撮影した作品で、遊園地を舞台にした、いろいろなカップルがそこで恋をして、別れがあり、犯罪がありといったオムニバス形式の映画。

# ① 全体会議 1

---

日 時 : 平成11年10月9日(土) 14:00~17:00

場 所 : 神戸相楽園会館

参加人数 : 250人

＝ 居留地返還100周年記念スライド上映 ＝

《第1部 総 会》 ・主催者挨拶 開港5都市景観まちづくり会議神戸大会  
大会実行委員会会長 野澤 太一郎

・来賓挨拶 神戸市長 笹山 幸俊

▶開港5都市参加団体紹介および活動状況報告

(休 憩)

《第2部 記念講演》 講 師 : 大森 一樹 氏 (映画監督)

テーマ : 「開港都市文化と市民活動」  
—神戸のまちと映画とわたし—

- 遊園地は六甲アイランドのアオイアという遊園地で、海に面したところに建った観覧車の灯りがとてもきれいだったので、どうしてもその観覧車が撮影したくて神戸にロケに来た。
- 撮影したのが、1994年12月14日で、撮影の1ヶ月後に阪神大震災が起これり、遊園地は閉鎖になってしまい、その観覧車だけがハーバーランドのモザイクに移されてきて、あれを見るたびにこの映画を思い出す。
- 僕にとって、この「大失恋」という映画はとても切ないものがあり、封切りも1995年の1月21日で三宮東映で封切られる予定だったが、センター街もつぶれて、とうとう神戸で公開されることもなく終わった神戸の映画である。
- たくさんの神戸市民の方々にエキストラで出ていただいていたので、神戸での公開を楽しみにしていた方もいたと思う。



◆さいごに◆

- 「大失恋」が神戸で撮った最後の映画で、震災以降ずっと神戸で映画を撮る機会がないが、僕の遊び場であった神戸から、あのエリアをちょっとずつ広げていながら、まだまだ神戸で何本も映画を撮りたいと思っている。



- 一映画監督としての神戸との関わり
- 映画のカメラを通して、神戸のまちにアプローチしてきたこの二十何年だったと思う。
- 市民・住民がまちにどう関わっていくかがまちの文化になっていく。
- 神戸というまちにアプローチする方法は、映画や歌や踊り、仕事やボランティアなどいくらでもあるので、市民の方々がそれぞれの方法で、道具を持って、神戸というまちに関わって行って欲しい。



会場入り口



会場(相楽園会館)の庭園





《スライド上映》

会議に先立ち、神戸旧居留地の100年間を振り返るスライドを上映。

“翔べ、次なる100年へ!!” 旧居留地の歴史を振り返る



1868年1月1日の兵庫開港とともに設けられた神戸外国人居留地は、通商の窓口だけでなく、欧米文化のショーウィンドウでもあった。いわば、居留地は日本の中に忽然と現われた西洋近代都市そのものであったと言える。



居留地消防隊の隊長であったアレキサンダー・キャメロン・シムが、1870年に大勢のボート愛好家を集めて現在も続くコウベ・レガッタ&アスレチッククラブの創設とボートハウスの建設を提案する。このクラブは、居留地の人々のスポーツだけでなく、西欧文化の紹介と普及に大きな役割を果たした。



神戸の代名詞ともいえる山・六甲山はアーサー・ヘスケス・グループによって開かれた。彼は、山上に避暑のための別荘や道路をつくるとともに、日本最初のゴルフ場「神戸ゴルフ倶楽部」を開設し、山を娯楽や憩いの場として提供したのである。



阪神・淡路大震災から丁度4年半、21世紀を目前にした今こそ、東西文化の接触と融合の場としての国際港湾都市神戸、とりわけ外国人居留地の歴史的意義を問い直し、多文化共生を目指す新しい世紀の街づくり・人づくりにおいて、神戸が果たすべき役割を再認識したいものである。

## ② ウェルカムパーティ

---

日 時 : 平成11年10月9日(土) 19:00~21:00  
場 所 : ルミナス神戸2 船上(中突堤~明石海峡大橋)  
参加人数 : 79人

## 地域分科会 A

日 時 : 平成11年10月10日(日) 9:30~16:30

テーマ : にぎわいのまちづくり — 歴史的環境と都市活動 —

参加者 : 26名

**主 旨 :** 1868年の兵庫(神戸)開港に伴い設置された神戸旧外国人居留地が、明治32年に返還されてから今年で100周年を迎えます。建設当時より変わらぬ街路や近代洋風建築など歴史的な景観特性や魅力にあふれ、旧居留地の建設から今日まで130余年にわたり、このまちは、いつの時代も神戸を代表するハイカラでエキゾチックな中心業務地として発展してきました。

近年、中心市街地の活性化が各都市の共通の課題となっていますが、この分科会では震災で大きな被害を受けた神戸・旧居留地地区をモデルに、次世代においても魅力にあふれる機能的なまちでありつづける中心市街地の姿をワークショップで議論し、まちの将来像やまちづくりのアイデアを考えました。

- 概 要 :**
- ① **オリエンテーション**  
神戸市立博物館地下講堂において、スケジュールの説明と班分け。
  - ② **レクチャー・タウンウォッチング**  
博物館1階展示室で神戸旧居留地の説明の後、タウンウォッチング。各自、気付いたところをポラロイドカメラで撮影。
  - ③ **昼 食**  
ニッケビル6階会議室で、和気あいあいのうちにお弁当。
  - ④ **ワークショップ**  
神戸旧居留地の良いところ、悪いところ、これからどうすればよいか……。参加者全員でワークショップ。

### ■オリエンテーションでは……

午前9時30分、神戸市立博物館地下講堂に集合。実行委員会の竹内利行さん(旧居留地連絡協議)の司会進行で、オリエンテーションが行われました。南嘉明さん(旧居留地連絡協議会副会長)の開会の挨拶、スタッフの紹介のあと、分科会コーディネーターの児玉善郎さん(産業技術短期大学助教授)から分科会の大まかな流れについて、参加者に説明を受けました。

分科会の進め方は、①班別に旧居留地をタウンウォッチングし、まちづくりの点から旧居留地内の良いところ、悪いところをポラロイド写真に撮りながら記録していく。②午後からは、グループ別のワークショップを行い、③各人がタウンウォッチングで気付いた点を持ち寄り、問題点などを



探り、④旧居留地のまちづくりのアイデアを模造紙にまとめて提案する、というものです。

参加者はA・Bの2班に分かれて、班内での自己紹介に移りました。ファシリテーターは、A班を辻信一さん(県緑地設計研究所)、B班を松原永季さん(Team200いうか設計組)がそれぞれ担当です。

## ■ レクチャー・タウンウォッチングの概要

次に参加者は、博物館1階の展示室に移動し、明治中頃と昭和10年代の、2つの旧居留地全体模型を前にして、佐久間泰夫さん(旧居留地連絡協議会)から、旧居留地の歴史、まちづくりの取り組みについてレクチャーを受けました。

そして、旧居留地のタウンウォッチングに移りました。市立博物館を起点にしてA班は東回り、B班は西回りで、旧居留地を歩きました。所要所で参加者はファシリテーター、旧居留地連絡協議会や市役所の関係者からの説明を聞き、時には質問もしながら、気の付いたまちの良いところや悪いところを、ポラロイドカメラで写し、メモに書き付けていきました。途中、地元の関係者が普段、(景観的に)今ひとつだ、と見ていた場所について、他都市の参加者から「いい感じの場所ですね」という意見があり、「違った見方もあるものなんだな」と地元の関係者が唸る場面もありました。

今回は特に朝日ビルディングに立ち寄り、25階から、鳥の目で旧居留地を俯瞰する機会も設けられました。他都市からの参加者からは、「ビルの屋上は、室外機や配管だけで殺風景な眺めだが、ヒートアイランド対策にもなるような、景観上の工夫ができないものか。」「旧居留地のシンボリックなタワーがあると、ランドマークになっていいのではないか。」などといった声が聞かれました。

途中で参加者手持ちのポラロイドのフィルムが足らなくなったり、ウォッチングに熱中するあまり迷子になりかけた参加者もでるという一幕もありましたが、ほぼ滞り無く、参加者は午後からの会場、日本毛織ビル(明石町)に到着しました。

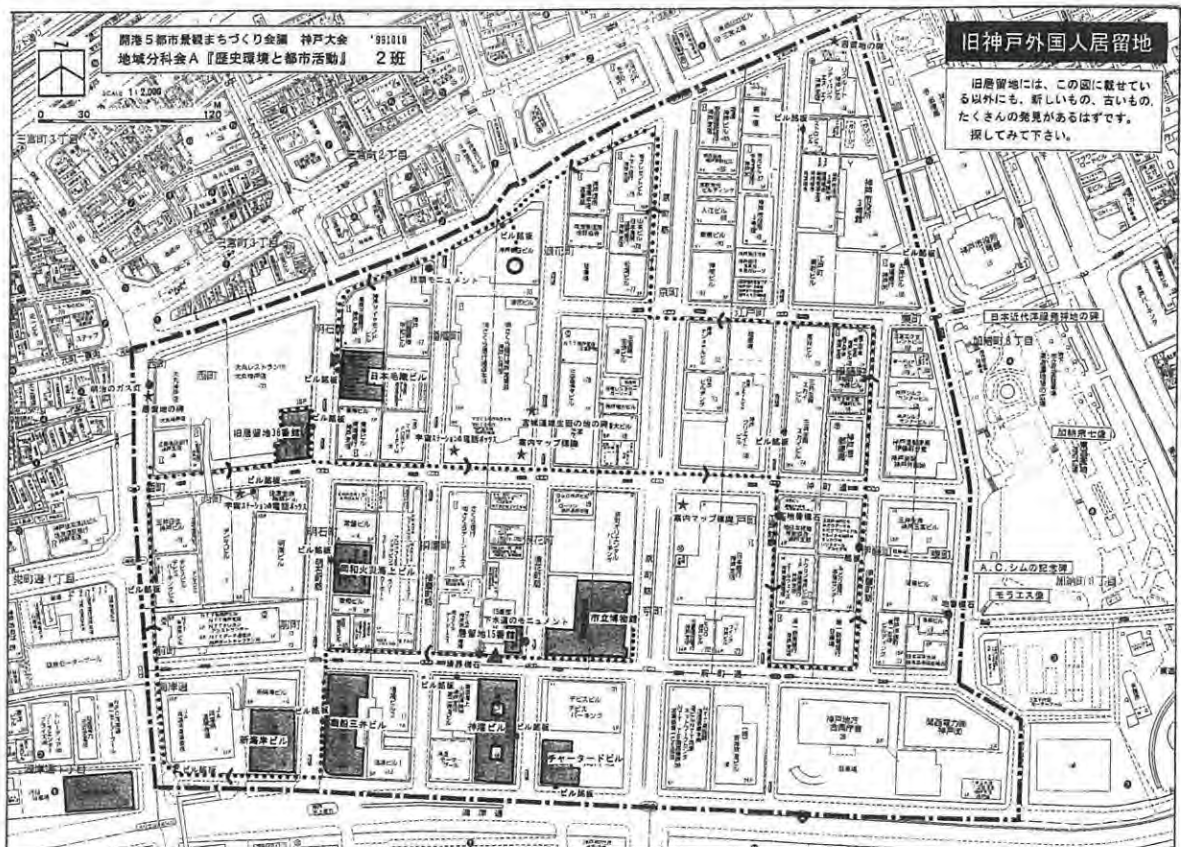
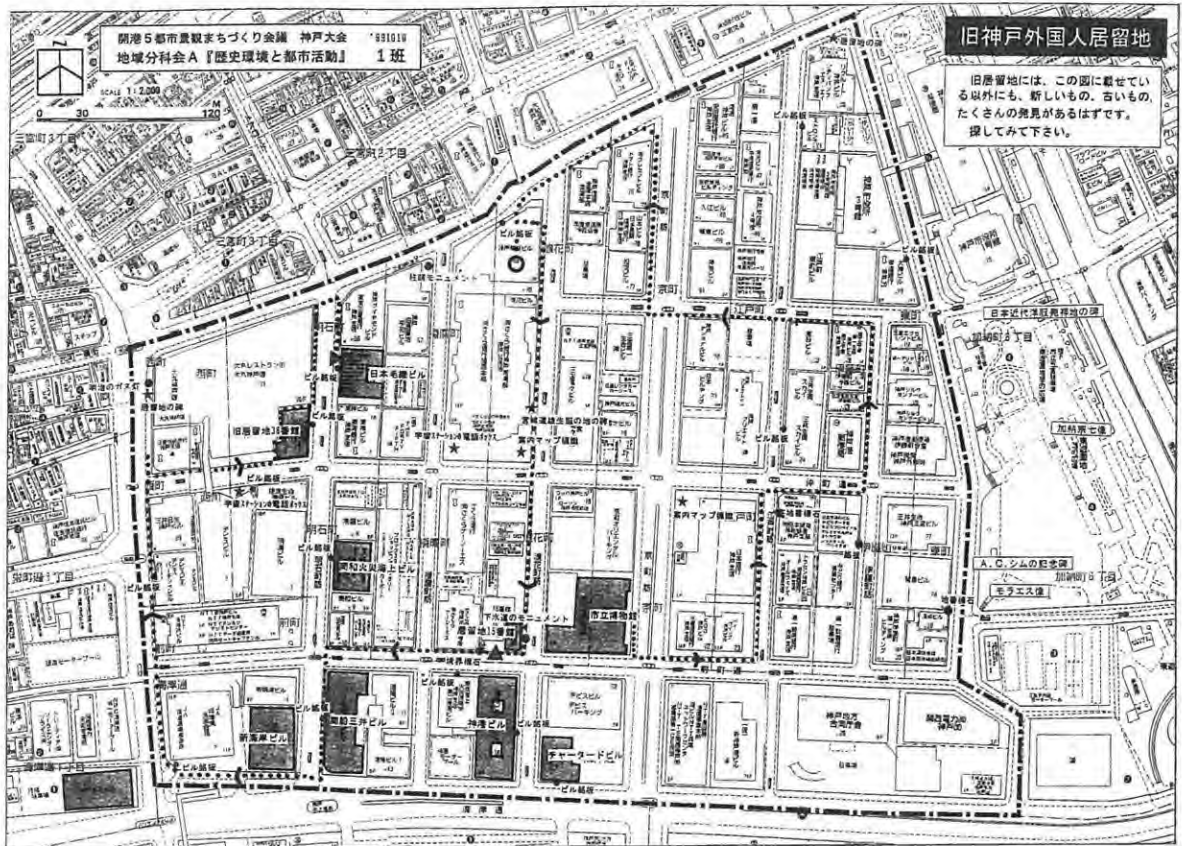


博物館1階展示室(神戸旧居留地の模型)



朝日ビルからの風景

(タウンウォッチングのルート)



■ ワークショップの記録

昼食を挟んで午後からは、地元の旧居留地連絡協議会のメンバーや神戸市役所の職員も助っ人に加わり、班別のワークショップに移りました。まず、午前中のまち歩きで気付いたまちの良いところ、悪いところを、ポラロイド写真を交えて討議しました。そして、ポイントごとにポストイットに要点を書き付けて、ポラロイド写真と一緒に地図上にプロットしていきました。

こうして出来あがった、町の良いところ・悪いところマップを、辻、松原両ファシリテーターが発表しました。

○まちの良いところ、悪いところ（班別の概要）

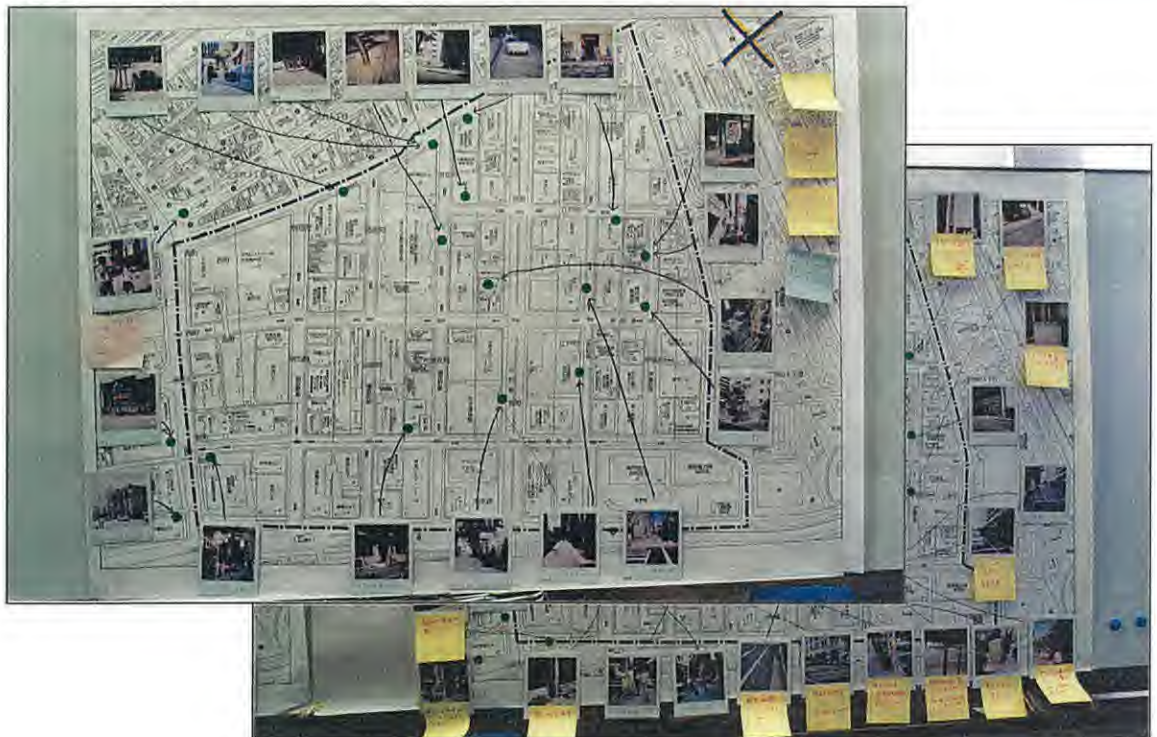
良いところ)	(悪いところ)
<p><b>A班</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 街路灯に鉢植えをハンギングして飾る</li> <li>• 公開空地进行ツツジなどで面的に緑化</li> <li>• 15番館の木製の塀と植栽</li> <li>• ケヤキ並木（関西では珍しい）</li> <li>• 地下駐車場換気塔まわりの緑化</li> <li>• 木製のプランター</li> <li>• 108番地のジャングルハウス（オフィス街に珍しい緑化空間）</li> <li>• 38番館横の蔦の小径の雰囲気</li> <li>• 大丸神戸店の回廊の空間</li> <li>• 海岸ビル公開空地の内部階段の造形</li> <li>• ガス灯まわりのカラータイル舗装</li> <li>• ビル名、通り名のプレート（統一感があって良い）</li> <li>• 三共生興ビルのコンビニのサイン類（抑制された配色）</li> <li>• 「北京城」の色。（外向きにアピール）</li> </ul>	<p><b>A班</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プランターが生きていない箇所がある</li> <li>• 通りに面して置かれた自販機が目障り</li> <li>• 派手な配色、レタリングの立て看板、幟旗</li> <li>• シティーループのバックミラー（色が黄でどぎつい）</li> <li>• ビル屋上の眺めが殺風景（室外機ばかりが目立つ）</li> <li>• 旧居留地内は方向感覚が乏しい（海を感じにくい）</li> <li>• 旧居留地内外の境目が明確でない</li> <li>• 郵船ビルのドームを復元してほしい（戦前は目印になるドーム、塔が多かった）</li> <li>• 歩道での違法駐輪、違法駐車</li> <li>• 郵便局のブロック塀は工夫の余地アリ</li> <li>• 交通標識をもう少し整理してみてもいい</li> <li>• サインや緑化などのいろいろ工夫を、市民にも判ってもらえる仕掛けを考えてみては</li> </ul>
<p><b>B班</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 建物角の空間を活かし高木等で緑化</li> <li>• セットバックした空間の形態</li> <li>• 町並みをスケッチする人々</li> <li>• パナーやオープンカフェの椅子（賑わいを演出）</li> <li>• あるブティックのロールテント（文字が小さめで良い）</li> <li>• ショウウィンドウを使ったギャラリー</li> <li>• わかりやすいサイン類（例 大丸カーポート、博物館のパナー）</li> <li>• おしゃれなサイン類（色のトーンも統一されている）</li> <li>• 工事現場の仮囲いをペインティング</li> </ul>	<p><b>B班</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 舗装材の色目、サイズが合っていない所あり</li> <li>• 駐禁のコーンの赤色が目障り</li> <li>• 駐車取り締まりのチョークの跡が目障り</li> <li>• 植栽の管理が悪い箇所がある（植え込みにゴミ）</li> <li>• 植栽の樹種が季節感に乏しいのでは</li> <li>• 洋風の町並みに和風の植栽</li> <li>• 張り出しテントが目立つところがある</li> <li>• プランターの置き方を工夫してほしい（周辺の植栽も視野に入れて）</li> <li>• サインが余所の人にわかりにくい</li> <li>• サインの中に文字が小さかったり、上の方に取り付けてあって見にくいものがある</li> <li>• 変圧ボックスの存在が目立つ</li> <li>• 居留地にいるという実感に乏しい</li> <li>• 地元の来訪者が少ないのでは</li> <li>• メッセージ入りのタイルを足蹴にするのはいかげんなものか</li> <li>• （悪いところがないので）書きようがない。</li> </ul>

.....etc.

## 良いところマップ



## 悪いところマップ



次に、町の良いところ・悪いところマップを前にして、今度はまちづくりのアイデアを出し合い、提案を練りました。そして、模造紙に意見を集約していきました。

A班からは、提案に先立ち、今回の町歩きの視点について、歩く前は、被災した歴史的建造物がどのように再建されているかに関心があったのが、歩いていく内に、緑化のありように注目するようになったことが語られました。また旧居留地の町の仕組みについて、東西方向の通り、南北方向の筋という関係が最初のうちはわからなかった、という感想も出されました。



まず、これまでの物見遊山的な「目玉型」から、まちそのものの楽しみを享受する「都市型」に観光のありようがシフトしつつある現状をふまえ、(1) 居留地を知らない人に、町の仕掛けを発見してもらう。(2) 地元の来訪者が少ないのではないか。(3) いまは業務に特化されたエリアが多いが、混在型の空間に変わっていてもいいのでは、という視点に立ち、次のようなまちづくりのキャッチフレーズが提唱されました。

○まちづくりのキャッチフレーズ

- (1) 絵になるまち
- (2) 歩く楽しさ石造りの街
- (3) 西欧文化のただようまち
- (4) 日本一のファッションのアンテナ
- (5) 人物を通して歴史を知る街
- (6) 若者だけの街になるな (大人のまち)

これらをふまえて、①建物・施設、②外部空間、③ハードの仕掛け、④ソフトの仕掛け、⑤活動という5つの分類で、



① 建物・施設

- ・車の排ガス対策で壁面全体を緑化した駐車場をつくってみてはどうか。
- ・ビル屋上を緑化しよう。
- ・外来者のためのトイレを増やしてほしい。

② 外部空間

- ・歩き疲れた訪問者が休憩できるミニ公園や広場を増やしてほしい。
- ・憩いの場として水辺空間を増やしてみよう。
- ・かつての木製ブロック舗装を再現してみる

③ ハードの仕掛け

- ・旧居留地の境目が分かる工夫 (舗装タイルなど) があれば。
- ・旧居留地を一望できる展望台など、まちを感じることでできる場所を。
- ・初めての人でも旧居留地の地理、歴史がすぐに分かる仕掛けをつくる。  
(居留地の案内図を複数箇所設置する)

⑤ 活動

- ・ゴミの分別収集を行う。
- ・街の人たちがもっと通りにでてきて (美化活動やパフォーマンスなど) 動きを見せる。

などといったアイデアが出されました。

B班からは、①緑②サイン・看板③道のものという区分で、

① 緑

- ・植栽の樹種を、季節感をより持たせるために、花の咲く樹種を入れるなど増やしてみよう。
- ・通りや筋ごとに樹種を統一してみる。
- ・植栽やプランターの管理に一種の「里親」制度を創設する。

② サイン・看板

- ・まちの案内看板を要所要所にもっと増やす。(企業の看板に相乗りさせる)
- ・質の良い屋外掲示物は許容しても良いのでは。
- ・「まちの素材」を見つけて、それでサインを作ってみよう。

③ 道のもの

- ・地上設置型変圧器のボックスの色を工夫してほしい。(現在のベージュ色は疲れた感じがする。)
- ・路上の違法駐車排除のための赤いパイロンはプランターに置き換えれば良いのでは。

などの意見が出されました。

## (第1部) 総 会

### □ 主催者挨拶

開港5都市景観まちづくり会議 神戸大会実行委員会 委員長 野澤 太一郎

「開港5都市景観まちづくり会議・神戸大会」の実行委員長を務めさせていただいております野澤でございます。

本日は多数の方にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。開会にあたりましてのご挨拶を、一言、申し述べさせていただきます。

本日からの3日間、私たちのまち神戸で「開港5都市景観まちづくり会議」を開催させていただくことができまして、大変、うれしく思っております。

この会議は、安政の修好通商条約によ

り開港しました函館、新潟、横浜、神戸、長崎の5都市におきまして、開港都市としての歴史や文化を尊重し、身近なまちなみの形成やまちづくりに取り組んでおります市民団体の集いでもございまして、それぞれの市民団体の活動を互いに確認しあい、情報交換と交流を図るために、平成5年秋に神戸においてはじまりました。その後、毎年、各都市持ち回りで順に会議が開催され、広く市民の方々の参加も得まして、その成果は、それぞれの活動に活かされつつあると思いますし、また、市民団体相互の交流も非常に密接になってまいりました。

折しも今年は「居留地返還100周年」の年でございます。開港都市のこれまでの100年を振り返り、次なる100年を決意する節目の年であろうかと存じます。当実行委員会では、“開港都市の未来(あした)を探る”を基本テーマに、大会運営を成功させるべく準備を進めてまいりました。今日からの3日間、皆様方の活発で有意義なご議論を頂ければ幸いに存じます。

神戸のまちは、平成7年1月の阪神・淡路大震災によりまして、多数の尊い命が犠牲になり、また神戸らしい街並みも残念ながら一部で失われてしまいました。しかしながら、これまでの水害や戦災など幾度もの災害時と同様、皆で力をあわせ復興に努力を重ねてまいりました。神戸港と六甲山の豊かな緑に接します美しい私達のまちを再建し、これまで以上に美しく魅力にあふれ、次世代に誇れるまちを再生させなければならないという、皆の思いでございます。震災から5年近くが経過しました神戸の復興状況を、是非、この機会にご覧下さい。

また、現在、神戸では居留地返還100年を記念いたしまして、この会議以外にもさまざまなイベントを開催しております。会議の合間にでも、ご参観いただければ幸いです。

本日からの3日間、この会議が、街並み・まちづくりに取り組むものにとりまして、有意義なものとなりますよう、皆様方のご協力をお願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。





## 〇まとめ

これらの提案を受けて、総合コーディネーターの見玉さんが、分科会全体のまちづくり提案について、  
①空間の演出②憩いの空間—アメニティを高める③ソフト戦略という視点から整理しました。

## ① 空間の演出

- ・旧居留地に入ったことが分かるよう工夫する。
- ・旧居留地全体のマップを辻ごとに配置する。
- ・人々を呼び込む質の高い（おしゃれな）看板を認めてはどうか。
- ・変圧ボックスのデザイン、色彩を工夫する。

## ② 憩いの空間—アメニティを高める工夫

（古いも若きも混在するまち）

- ・水辺空間を取り入れた公共空間
- ・散歩の休憩ができる空間やミニ公園を作る。また市民トイレも増やす。
- ・居留地時代の木ブロック舗装を復活させる。
- ・花の咲く木を植える。植栽の樹種を増やす。

## ③ 人が集まってくる施設

- ・旧居留地を見渡せるタワー
- ・深夜まで営業しているおしゃれなバー

## ④ ソフト戦略

キャッチフレーズ

- ・西欧文化のまち
- ・石造りのまち
- ・絵になるまち
- ・ファッション性のあるまち

これらの提案に加えて、参加者から、

- ・地区の働く人々に旧居留地のことをもっと知ってもらおう。
  - ・1日2回の旧居留地ツアーを行ってみては。
  - ・都市型リゾート地区として、休日の当地区での多様な楽しみ方をアピールしては。
  - ・変圧器ボックスを案内板に利用できるのでは。
  - ・地区内各ビルによる花壇コンクールの開催。
  - ・街全体が花の廻廊となるよう植栽（例えばアメリカ花ミズキ）を工夫してはどうか。  
（四季のある街、旧居留地）
  - ・できれば京町筋より東にもファッションな店舗展開を。
- ……などの補足意見が出されました。

最後に、旧居留地連絡協議会会長の野澤太郎さんが挨拶に立ち、分科会を締めくくりました。



## □ 来賓挨拶

神戸市長 笹山 幸俊

今日は、皆さんたいへんお忙しいところ、また遠方からこの会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。今日お集まりの各都市は港湾都市であります。この港町というのはいろいろな歴史や経過を持っていますので、それについて今後どう考えるかということのご議論をしていただくことになると思います。神戸の姉妹都市であるフランスのマルセイユで、今年の6月に開港2600年の記念事業の一環で、港



湾都市とはどういうものかというテーマの会議がありました。その場で、港として発展してきた歴史や文化を残していくということしか活性化の方法はないと彼らは言っております。港町の再生と経済、都市の活力を得るためにはどうしたらいいか。日本でもその時代時代に応じて変わっていったのです。

### 1. ものの動き — 船、船によって運ぶものがどんどん変わっていった

世界中のもの動きが変わり、その中身自体も変わった。その中身を必要とする国がそれをもっている国に船を出したという歴史があり、そういう歴史がなくなると、当然港は使えなくなる。

### 2. ものの動き、人の動きが変わると港の規模を変えないといけない

世界の古い港町（旧港）は、現在ほとんど観光資源として使われ、そして、実際の物流には、別のところに新港をつくって対応している。（船型の巨大化）

### 3. 港湾都市の再生 — 時代に応じて、それを残すために何をしたらいいか

飛行機の登場によって、物流、人の動き、情報のスピードが速くなってきており、かつての役割を演じてきた港湾都市はそれに対応できないというのが現状であり、港湾がその地位を失ってきているというのが世界共通の認識である。例えば、日本の中でも瀬戸内の港が一漁村となったり、宿場町として継続はしたが、近代になって対応できないまちがたくさんある。

一方、港町には海があつて坂のある市街地があつて後ろに山があるという共通した面があり、また、昔から良港と言われるところは、船が停泊したときに安全なところということから地形が複雑なところが多く、地形の複雑さゆえに、地震や水害、台風の被害に遭いやすい。港湾都市の再生には、現在残っている歴史をできるだけ残していき、またそれから新しいものをつくりあげていくという姿勢が重要であり、また、まちを持続的に発展させていくような仕組みがいる。

### 4. さいごに

神戸の現在の復興状況はあらゆる問題を含めて7割から8割しか復興しておらず、アジア地域の経済状況、日本の不況も関係あるが、港の貨物は減っている。戻すために何をしたらよいか。例えば、飛行機がいる、情報通信の基盤がいる。まちも次の世代の新しい都市の内容と現在我々が持っている歴史や文化をそれぞれの都市がそれぞれの特色を生かしてつくりあげていくことが大切である。

この3日間で、お互いの歴史やそれぞれの都市の持ついいところを学び、相互補完しながら、それぞれの地域のまちづくりへ活かしてください。



長崎の皆さん

(司会) 浅木隆子 (北野・山本地区をまわり、そでてる会)

(乾杯) 松下綽宏 (神戸市都市計画局長)

《各都市参加者紹介・あいさつ》

歓談

夜景観賞



新潟の皆さん

(閉会) 南嘉明 (旧居留地連絡協議会)

《参加者名簿》

(函館市)

元町倶楽部	陳 有崎
函館市役所	松村由紀夫

(新潟市)

サングラム石山商店街協同組合	栗間 道雄
	笠原 一夫
	柳沢 茂
新潟の水辺を考える会	森本 利
新潟花絵プロジェクト実行委員会	小柳 行弘
新潟あきんど塾	本間 龍夫
	星野 隆
新潟市役所	阿部 保夫



横浜の皆さん

(横浜市)

山手まちづくり協議会	鈴木 嗣麿
	天川勝三郎
	八木 敏子
山手西部自治会	石川喜三郎
横浜シティガイド協会	嶋田 昌子
横浜市役所	山下 恭子
	国吉 直行
	小田嶋鉄朗

(神戸市)

北野・山本地区をまわり、そでてる会	浅木 隆子
	豊田 繁
	人見陽一郎
	若山 晴洋
	浅野 正運



函館の代表

## 地域分科会 B

日 時 : 平成11年10月10日(日) 9:30~17:00

テーマ : まちのアイデンティティ — 居住文化と商業・観光活動 —

参加者 : 48名

主 旨 : 神戸に居留する外国人の住宅地として発展した北野・山本地区と阪神間山麓部に高級住宅地として開発された岡本駅周辺地区は、共に緑豊かな六甲山の山麓に、港を望む良好な住宅地として形成されてきました。

両地区いずれも、近代建築物やまちなみなど、個性的で良好な居住環境と高い文化レベルを維持してきましたが、近年では、観光や商業活動なども活発に行われるようになりました。また、日本酒の代表的産地である「灘五郷」のひとつ魚崎郷では、震災により数多くの木造家屋が失われ、酒蔵にかわり新たにマンションや商業施設が次々と建設されるなど、居住環境と商業環境の持続可能な融和・調整が課題となっています。

本分科会では、阪神間の居住文化に焦点を合わせ、岡本をこよなく愛した文豪、谷崎潤一郎の足跡を訪ね歩き、谷崎文学の世界を通して、まちのアイデンティティを参加者が共有、再確認するなかで、開港都市すべての課題でもある居住文化と商業活動のあり方について探ります。

概 要 : ① タウンウォッチング・レクチャー

谷崎潤一郎の足跡をテーマに、岡本～魚崎を見学し、阪神間住宅地のアイデンティティを共有する。

- ・岡本：鎖瀾閣跡地→岡本梅林公園・鎖瀾閣再建予定地→好文園→
- ・魚崎：倚松庵→菊正宗酒造記念館→
- ・北野：異人館

② 昼 食

場所を北野に移し、谷崎好みの食材（ハモ）入り弁当を参加者全員で試食をし、トークインに向けての雰囲気盛り上げる。

③ トークイン

総合司会：橋谷惟子氏（美しい街岡本協議会）

問題提起 ・たつみ都志氏（武庫川女子大学教授）／兼コーディネーター  
・高田公理氏（武庫川女子大学教授）

東灘（岡本・魚崎）と北野を中心にまちの現状や将来方向について、視点の異なる2人の識者が問題提起する。

議 論（全員参加）

### ■ タウンウォッチング・レクチャーの概要

鎖瀾閣 谷崎は阪神間で13回引っ越しをしているが、唯一谷崎自身が設計している。

この時期は、ヨーロッパ的なものへのあこがれと、大正7年と15年に中国に旅行をしており、中国かぶれの時期でもあり、また日本の古典に興味を抱く転機でもあり、3つの様式が取り入れられている（西洋バス、中国風玄関、純和風の居室）。谷崎のエネルギーが感じられる住宅である。

ここで、「蓼喰ふ虫」や「卍」を執筆した。

## □ 開港5都市参加団体紹介および活動状況報告

司会者による参加団体の紹介の後、各都市からの状況を報告。

### ○ 函館市（陳 有崎：元町倶楽部）

- 元町倶楽部の活動が公益信託函館色彩まちづくり基金に発展した。
- 函館もかつては港湾都市として栄えていた。

→海産物の貿易港として非常に栄えた経緯があり、その後オホーツク海のサケ・マスの母船式漁業の中心都市として栄え、また交通関係では飛行機のない時代には本州との拠点として栄え、産業としては函館ドックという造船業が栄えた。

- 造船業も全体的な構造不況の中で青息吐息の状況で、青函トンネルの開通に伴い青函連絡船は廃止となり、函館の港湾としての機能は飛行機に押されており、港といっても船はほとんどない寂しい状況である。
- 古いまちなみがあり、その古い家や建物を再生利用することによって、まちの活性化が図られている。
- 神戸の復興まちづくりのエッセンスを学び、他都市のまちづくりに対する意欲や努力やアイデアを学んでいきたい。



### ○ 新潟市（栗間 道雄：サンクプロム石山商店街協同組合）

- 10の景観形成団体が連絡協議会をつくり、景観に関わっている。
- 港の再開発や中心商店街等に関する開発や駅舎の開発、それからワールドカップ開催に伴う開発など様々なプロジェクトが、厳しい経済状況の下で次々と着手されている。こうしたプロジェクトで単に建物をつくっていくだけでなく景観も含めて検討しようということで活動している。

- 昨年、第2回新潟市景観賞に関連して、ワークショップを開き、市民と一緒に議論をした。

→景観の受け取り方はいろいろあるが、われわれは景観は根源は人の心の中にあって、その形成された景観が再び人の心に戻ってくると考えている。もう一度景観とは何かということを真摯に考えていかなければならない、そしていろいろなプロジェクト、まちづくりに関しても何らかの提案をしていきたいと考えている。

- 現在どのようにやっていこうか検討中で、今回の大会で勉強したい思っている。





旧居留地連絡協議会

美しい街岡本協議会

神戸南京町景観形成協議会

トアロード地区まちづくり協議会

新長田駅北地区東部いなか委員会

魚崎郷まちなみ委員会

神戸市役所

河合 利一  
高橋 正  
山森大雄美  
加藤 虎一  
近田 俊彦  
南 嘉明  
橋本 庄造  
佐久間泰夫  
竹内 利行  
梶塚 茂雄  
坪井 弘行  
岡部 幸雄  
田中 三郎  
戸澤シズ子  
橋谷 惟子  
柏木 良一  
田中 健  
斉藤豊次郎  
曹 英生  
黄 錦成  
山本英五郎  
沢口 涼祐  
上根 保  
横山 祥一  
野村 勝  
森松リチ子  
松本 弘子  
松下 紳宏  
片瀬 範雄

(長崎市)

山手地区景観まちづくり協議会 橋田 克男  
田中 美朗  
今村 茂敏  
山口昭仁郎  
伊藤 國義  
小曾根吉郎  
平和公園地域まちづくり協議会 宮崎 勇  
木村 慶子  
長崎市役所 佐藤順次郎  
松尾 龍太  
前田 孝志

(講師等)

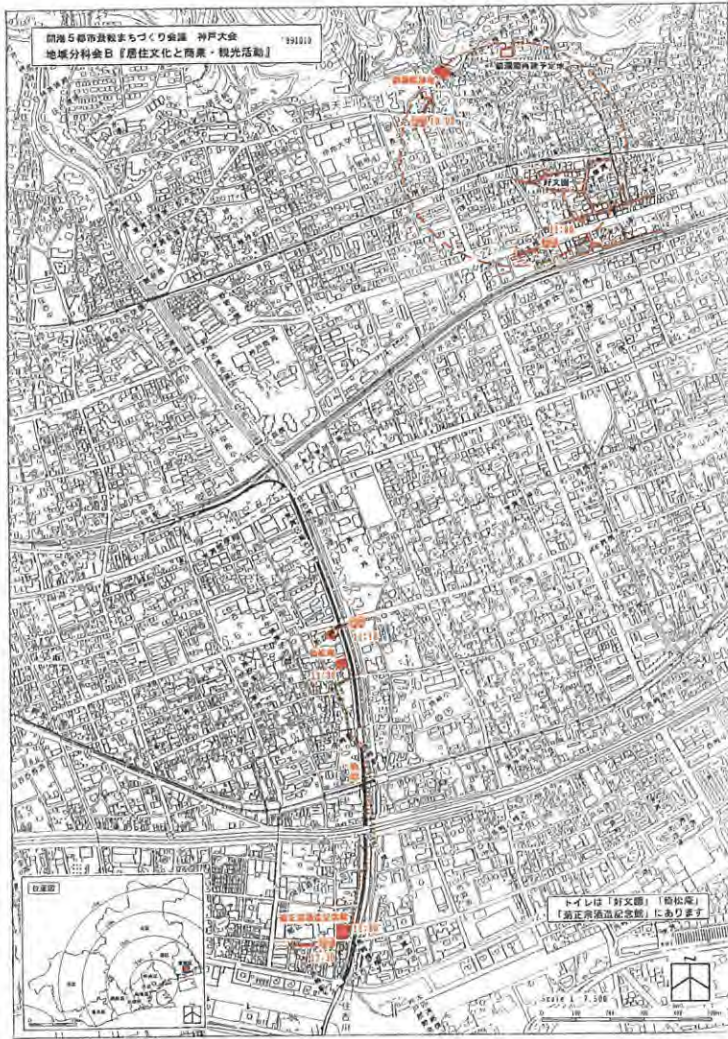
記念講演 大森 一樹  
同 夫人  
地域分科会B たつみ都志  
地域分科会C 湛 沛輪

(事務局)

神戸市アーバンデザイン室 倉橋 正巳  
中山 久憲  
山崎 章子  
炬口 正  
熊田 典彦  
石中 久仁  
邊見 徹  
一岡 泰子  
平尾 真子  
山本 俊貞  
中尾 嘉孝  
吉川健一郎



ルミナス神戸2からの夜景



谷崎は見晴らしのよいところが好きで、また梅が好きで、梅を見るための観音開きの窓がついていた。

再建予定地(岡本梅林公園隣)は、当時の眺望や梅の景色に近い場所である。

**倚松庵** 六甲ライナー建設により、北へ600m程のところに移築保存。(住宅の向きも同じように平行移動)

移築の際に耐震構造にしたので震災による被害はなかった。ここでの暮らしが「細雪」のモデルになっている。

当時、中流階級でのやはりであった合理的で細工を施した家具を、谷崎が使っていたという証言に基づいて復元している。

各部屋に2つ出入り口があるなど合理的な空間構成になっている。庭木も当時とほとんど同じである。

**魚崎郷** 酒蔵のまちを残していきたいと考えているが、酒造会社が13社から7社になり、その跡地にマンションの計画がいくつもあがってきており、このままではまちが一変してしまう。

この危機感から、魚崎郷・景観形成市民協定を締結した。マンションになっても何とかかつての雰囲気を残したいと、せめて庭まわりだけでも和風してもらえないかとマンション業者をお願いしている。長いスタンスで酒蔵のまちを復活させたい。

(魚崎郷まちなみ委員会・大石委員長 談)

**菊正宗酒造記念館** 酒づくりの行程を昔の写真や道具を用いながら説明を受けた後、新酒の試飲。  
**北野** ジャズ・ストリートでにぎわう異人館街を歩いて、会場である異人館倶楽部パートIIのパラディウムに到着。



岡本のまちなみ



「鎖瀬閣」再建予定地

## 2. 議 論

問題提起を受けて、各都市の人たちからまちのアイデンティティに関する様々な意見や地元での取り組みが発表された。それらを以下のテーマ別に整理する。

### □色、素材

- 金沢の犀川沿いは素材がそろえられており、色彩も調和しており、落ち着いた感じがでている。
- 景観を考える上で、建物の形態については金額的な問題にも絡み難しいが、色彩は対応できる。  
→芦屋市では地域の色として、基調となる景観色を決めている。
- 阪神間は花崗岩で土地の色が白っぽく、明るいのに対し、関東は関東ローム層で土が黒っぽくて、やや陰鬱な感じがする。  
→土の色の違いが地域色になる（さざんかは阪神間の白い土より関東の黒い土に映える）。

### □まちと作家

- 新潟—坂口安吾の父親は県知事にまでなったし、確かにゆかりの地であり、坂口安吾を取り上げて活動している人も少しはいるが、新潟に残した足跡がほとんどなく、取り上げにくく、逆にどうしたらよいかわからない状況である。
- 岡本—岡本は谷崎が愛したまちで、岡本に谷崎が住んでいたということが周知されていない。  
→まちのアイデンティティをそこのまちに住む人に気づかせ、どう気持ちをかきたてていくのか。
- 横浜—文学館はあっても、まちなみやまちのアイデンティティには反映されていない。
- 自分のまちからでた作家を知らない人が増えている。
- 単に有名な作家を持ち出してももてあましてしまい失敗するときもある。  
→本当にそのまちのことを愛し、本当にそのまちのことを書いている作家や作品を掘り起こすということが大切で、その掘り起こす過程の中でまちの人がアイデンティティを持っていくのである。
- ハードな取り組みだけでなくソフトな取り組みが重要である。
- いずれ歴史はできていくので、今は何もなくても、これから文学や音楽をつくっていくことをまちづくりの中に盛り込んでいくことも可能だと思う。そうすれば住んでいる人にも自然にまちのアイデンティティが芽生えてくる。  
→作品の題材となるようなまちは、逆に言えば、アイデンティティを持っている。

### □まちと緑

- 岡本では、銀行の社宅の豊かな松林がある日突然切られてしまった。行政として何とかできないのか。  
→住民運動と行政をつなぐパイプ役、あるいは仕組みが必要である。
- 須磨離宮公園の周辺では、震災で大邸宅が倒壊し、そのあとマンションに変わってきており、また道路の拡幅に伴い、昔ながらの松並木が切られることになりそう。



→まちの中の緑が減っていき、昔からのまちの風景も失われていく。住民と行政の連携が必要である。

- 横浜の山手地区では、数年前にある日突然邸宅の緑がぼっそり切られてしまい、マンションに変わってしまった。

→住民のこだわりがどれだけ行政を動かせるかにかかっている。

### □各まちの取り組み

- 北野町—まちは歴史と共に変わっていくもので、何もせずそのままでは観光地とはなり得ない。

テレビの放映後急に観光地化したので、その中でいかに異人館を保存しながら、住んでいる人もある程度頭を切り換えて、昼間は観光に任せなくてはならないという部分が出てきた。

かつては行政主体でもらってきたという感じだったが、現在はデザイン部会や学ぶ会などいくつかのテーマの部会に分けて、まちづくりについて行政と一緒に勉強・検討を行っている。

住民の間でも、行政とも細かいコミュニケーションが不可欠で、住民がめざすまちというものを共有して、行政に働きかけていくことが重要である。

パリのように変えない美しさ、保存の美学というものが必要だと思う。

異人館を残してそこに住むためには維持管理などにお金がかかり、マンション問題の時になくなってしまいう可能性もあったが、逆に観光という観点からマンション化反対ということになり残った経緯がある。異人館は見せることによってお金が入り、そのおかげで残ったという面がある。

北野は坂道が多く、お年寄りにとっては交通の問題があったが、観光客のためのシティループが逆にお年寄りをはじめ住民の足として非常に役に立っている。

- 長崎市—長崎市の方でメインに行っているまちづくりが平和公園周辺地区で、まちづくり協議会をつかって、原爆資料館や平和公園があることによって醸し出される雰囲気や、観光のスポットにふさわしい景観形成基準を策定した。

旧居留地の歴史と文化を持った山手地区では、建築物の高さ、色、形態に関する景観形成基準があり、新しく建築物を建てる時には、都市計画課と協議を行っている。

個人の意志に反する部分も出てくるかもしれないが、まち全体で考えていけば、昔ながらの建物などを残していくという考えが結局まちのステータスを上げていくことになると考えている。

- 新潟市—浜手に江戸時代末期に保安林の目的で植えられた松林があり、そこに隣接する二葉町は大正末期から昭和初期につくられた閑静な住宅地で、平成10年3月に景観形成地区に指定された。

そこは、住民が熱心で70歳代後半から80歳代の方々が中心になって、自分たちのまちを孫の世代に誇りになるようなまちづくりをしていきたいということで、自分たちでルールをつかって、そのルールに基づいて後世に自分たちのまちを残していこうと活動している。

このケースは、住民の方々が景観の推進会を結成して、自分たちでルールを決めて、それを協議会で100世帯あまりの全住民にアンケートを行い、約97%の方が賛同し、それを受けて行政の方で景観形成地区に指定した、いわば住民の声に行政が突き動かされた例である。

推進会には子供部会があり、チューリップを育てて、春には地区内にある会津記念館の玄関付近をプランターで飾るという活動をしており、子供たちにもまちづくりを体験してもらい、自分たちのまちをよくしていくんだという思いを持ってもらうことは大切である。

道路工事の愛称を募集して決めることによって、自分たちのまちに愛着や誇りを持ってもらえるような活動もしている。



- 横浜市—どんな細かいことでも常に地元と行政の話し合いを持ち、一番いいと思われる方法でやっていけるように、地元と行政の協力体制のもとでまちづくりをすすめている（パートナーシップ制度）。

ある地区で道路整備の話し合いをしている中で、反対意見が出て結局道路整備は延期になったが、反対意見も含めてまちの将来について住民の方みんなでどうしようと話し合いが行われ、これを機会にまちづくりについて住民と行政の理解がさらに深まり、道路整備については将来的に考えていくということになった事例もある。

- 神戸市—須磨の名谷は、できて20年ぐらいのニュータウンだが、駅前の商業地域を中心として、盆踊りやパティオの一角の噴水広場で精霊流しなどの活動をしながら、少しずつまちのアイデンティティが根付いてきているような気がしている。

#### □まちと暮らし

- 若者が住みたいまち—コンビニとファミリーレストランのあるまち
  - 樋口一葉の「たけくらべ」に描かれているように、かつて駄菓子屋がコミュニケーションの場であったように、現代ではコンビニやファミリーレストランが若者の集う場となっている。
  - コンビニは雨後の竹の子のように乱立し、また色彩も派手なためとても目立つ。
  - ベンチを配置するなど、いろいろな仕掛けによって若者が集う風景をまちなみとして演出して、まちの活気のある場に転換できないか。
- 商業施設をまちの風景に馴染むようにする試みが全国でなされている。
  - 例) 小布施では自動販売機を竹で覆うことにより、便利さと景観を両立している。
    - 大都市よりも小規模な地方都市の方が取り組みやすいという一面もある。
- 岡本は甲南女子大学や神戸女子薬科大学があり、まちの中に女子学生をターゲットにしたお店が増え、そういう雰囲気になっており、うまく学生の街ということを活かしている。
  - 一方で、関大前は駅から大学までの道沿いは、かつては古本屋があつてとてもいい学生街だったのが、現在はゲームセンターやレンタルビデオ屋やサウナが建ち並ぶようになってしまった。
    - 自然に任せてばかりいてはだめで、ある程度誰かがこうしようと提案していかなければならない。
- 誰でも快適に住めるまちというものはありえず、誰もが住みたいまちというスローガンのもとでつくられるまちはろくなものではない。
  - 発想の転換が必要である。
- それぞれのまちの顔というものがあつて、それが自然発生的にまちの顔になったのであれば、それを受け入れてみることもひとつの考え方である。便利さを追求することによって捨てていくものを大事にした方がいい場合もある。
  - 例) 阪急石橋駅前の商店街は古くて細い道にあるごちゃごちゃした商店街だが、それなりに味があり、そこへ行かないと買えないものがあり、そうした地域を阪急の高架化でなくさないようにしなければならない。
- 一般の生活者の意見を聞かなくてはいいまちはできない。

#### □まちのアイデンティティ（まちづくりをしていく上でのよりどころ）

- 何にもないところに新しくまちをつくるときにはどうしたらいいのか
  - どこにも歴史はあり、神社・仏閣に限らず、樹木など過去を感じられる場所やものはあるはずで、そうしたものを壊さずに残していくという方法もある。
- まちなみを考える時、デザインの問題が出てくるが、デザインに対する感覚は千差万別で難しい問題で

ある。何となくバランスがとれていてきれいなまちなみをつくっていかうとする時に、故事来歴とかその土地の物語にあったデザインを考えていけば、説得力も出てくるし、納得しやすい。

- 例) 魚崎の酒蔵のまちとしてのイメージの共有
- ヨーロッパの住宅は石造りなので400年ぐらいで償却するため、いろいろなことを100年スパンで考えるが、日本ではもっと短いクールで考えた方がいいのではないか。

→まちのアイデンティティとそうしたまちを考える上でのスパンが関係あるのではないかと。

- 時間の経過とともに、まちはそこに住む人の醸し出す雰囲気みたいなものを醸し出してくると考えられ、そう考えると、まちのアイデンティティはまちにあるのではなく、住む人の中にあるもので、自分のまちに愛着や誇りを持つことが大事である。
- まちのアイデンティティは、現在住んでいる人たちが無理矢理作り上げるものではなく、自分たちのつくったものが他から跳ね返ってきた結果がアイデンティティとなると考えており、5～10年のスパンではなかなかまちのアイデンティティはできてこないと思う。
- コミュニケーション、やりとりが交わされるコミュニティとアイデンティティは密接な関係にある。
- 将来の見通した目をもったまちにはそうした人たちが集まり、それがアイデンティティとなる。
- アイデンティティはデザインにも現れるが、住民の暮らしの中であり、他のまちとの相対的な関係から気づかされる側面もある。

### 3. まとめ

最後に、たつみ先生にトークインの総括をしていただいた。

- 従来の上意下達型ではなく、住民からあがってきた声を取り上げ、行政がそれを整理しながら、一緒に考えていくような、行政と住民サイドとのうろわしい密な関係がこれからは必要である。
- これまで近代の都市計画の中で、早いことや見て美しいまちなみ、便利なまちなみということ 키워ドに取り組んできたが、今ここでちょっと立ち止まって考える時期に来ている。

まちの中で便利さを追求するのではなく、不便でもここに住みたいといった土地への愛着、こだわりをもってまちを考えていくことが大切である。

- 今すぐということではなく、長くゆっくりと、10年、20年、あるいは100年というスパンで先行きの長いまちなみを考えていくということがこれからのまちづくりの基本となる。
- 建築家や都市計画に携わる人たちはもう少し歴史や文学について勉強して欲しい。

ハード面ばかりを追求して、それを駆使するのではなく、もっとソフト面を大事にして欲しい。

- 文学に現れる阪神間というのは、白い砂、青い海、青い空、そして緑の葉であり、やはりそうした白砂青松の色というものが重要であり、私は文学の中で理解しているが、今日ご参加のみなさんにはその裏付けをしていただきたい。



谷崎好みの食材(ハモ)弁当で昼食



## 地域分科会 C

日 時 : 平成11年10月10日(日) 9:30~17:00

テーマ : 動のまちづくり — 外国文化と産業共生 —

参加者 : 23名

**主 旨 :** まちづくり活動に取り組むとき、一番大切な要素として、まちづくりに携わるメンバーが、活動を通して「楽しさ」「生きがい」「一体感」という過程がなければ、持続的な息の長い活動につながらないと考えます。

神戸の中華街「南京町」は、外国文化を身近に肌で感じることができるエキゾチックなまちとして形成、発展してきました。

この分科会では、外国文化と産業が共生し融合しながら成長する動のまちづくりを、神戸「南京町」を事例にその活動の可能性を探ります。また、開港5都市におけるそれぞれの活動事例の紹介を交えて討議し、まちの個性とまちづくりイベントによるまちの活性化について提案します。

**概 要 :** ① タウンウォッチング

〈トアガーデン〉……〈北野工房のまち〉……〈トアロード(クラフトアートフェア開催中)〉……〈旧居留地15番館(震災で倒壊し、復元した重文)〉……〈神戸市立博物館(「神戸・横浜開化物語」の開催中)〉……〈南京町(身動きできないほどの人出の中をウォッチング!)〉……ワークショップ後、竜踊りを見、参加する。

② 昼 食

とてもおいしい中華料理を堪能。

③ 料理体験

老舗民生のシェフによるシュウマイづくりを体験。  
昼食後でもおいしかった。

④ 南京町イントラネットの紹介

南京町の魅力を全世界へ発信。

⑤ ワークショップ

参加者全員によるフリートークング。

コーディネータ: 湛 沛綸  
(タンハイリン、(有)マイカーン代表)



南京町



トアガーデン



北野工房のまち



中華料理の昼食



料理体験



南京町イントラネットの紹介



ワークショップ後の龍踊り見学（南京町広場）

## ■ワークショップの記録

### <参加者全員の自己紹介>

コーディネータ：まず自己紹介をしてください。

一般：兵庫県の三木市から来ました。おもしろいところをいろいろ見せていただきました。

長崎：はじめて参加しました。50年ぶりにこちらに来ました。ずいぶんとまちが変わっていて、いい勉強になりました。

長崎：まちづくり課の前田です。来るたびに発見があります。

南京町：南京町の黄です。

一般：神戸の垂水区の伊藤です。料理体験など出来て楽しかったです。

一般：神戸の長田区から来ました。神戸を題材にした作詞も行っています。神戸をもっと広めたいということから参加させていただきました。

一般：神戸の垂水から来ました。震災前はこのあたりによく来ましたが、震災後は余り足を運びませんでした。今日町を歩いて、かくも復興したかと驚いています。昼間はシルバーカレッジでまちづくり協議会のことなどについて勉強しています。

横浜：横浜中華街から来ました小島です。今日の会合を楽しみにしています。

横浜：横浜の経済局から来ました。神戸の中華街を色々勉強したいと思って参加させていただきました。

長崎：夜景と実習のシュウマイがおいしかったです。

長崎：来年は長崎で、是非ともおくんちにあわせて開催したいものです。





南京町：沢口です。次は我々（若者）の時代です。いいところを見習って行きたい。

神戸市：アーバンデザイン室に所属しています。まちづくり支援を担当しています。

南京町：コンサルタントの白井です。まちづくり計画に関わっています。

南京町：曹です。皆様のご意見を参考に南京町のまちづくりに生かしていきたい。皆さんも各地のまちづくりに参考にさせていただきたい。

### <祭り・イベントの文化の育成……人を引きつけるまちづくりについて>

コーディネータ：湛です。これから5都市の方々から話していただくわけですが、写真集を見るように、しかも解説が付いているような、そんなかたちで進めて行きたい。テーマは“動のまちづくり”です。私はこれを“ダイナミック”ととらえています。まちがいかにか人を引きつけ、結果的に金が落ちるかと言うことだと思えます。“何が人を引きつけるか”ということでまずは神戸から話してください。

南京町：南京町のまちづくりに春節祭は大きな役割を果たしている。マスコミへ宣伝し、イベントに人がたくさん来、その人たちがまた人を呼んでくる、という風にまちの活性化のキーになっている。例えば竜踊りなんかは、人が来、拍手をいただくことでさらに技術を磨こうと思ひ、それがまた人を呼ぶという、いい相乗効果をもたらしている。若い人は目立ちたいもの。自分にとってどうかということを大切に活動をしている。

新 潟：新潟は観光都市ではない。人が集まる場所がない。新潟は冬寒いのでなかなか人が集まらない。「冬食の陣」というイベントをやって人を家から出す、とにかくまず人に来てもらうことに取り組んでいる。

コーディネータ：「冬食の陣」は商店街だけが取り組んでいるのですか。

新 潟：市民が取り組んでいる。行政の支援を得ている。経済効果もある。

函 館：新潟は都市機能が成熟し観光に依拠しなくてもよいというのはうらやましい。かたや函館は産業が衰退し、観光は大きな産業となっている。函館山からの夜景を生かす、古い街なみの再利用などのまちづくりに取り組んでいる。

コーディネータ：五稜郭のイベント、野外オペラはどうですか。

函 館：今から10年前に始まった。市民参加型。苦しい思いをしながら行っているが高い評価もいただいている。

南京町：南京町は、非日常性、異空間の場所で、中国のテーマパーク的なもの。地理的有利さもあるが、気軽にお祭り気分が味わえることで人を引きつけている。これからはこれだけではダメだと考えている。例えばよさこいソーラン踊りとか、参加型イベントが重要だと考えている。まちのファン、リピータを増やしていきたい。行政からお金が出るから何かをするのではなくて、我々が主体性を持って取り組んでいきたい。

南京町：春節祭はこれまで12回やってきた。イベント業者には任せていない。手作りのイベント。金もかからない。

コーディネータ：春節祭は、旧正月の祭で長崎（ランタン祭）、横浜でも行われている。

横 浜：神戸中華街は今日も沢山の人が来ているが、どこから来ているか非常に興味がある。横浜中華街も年間1,800万人の来街者がある。

横浜ではイベント＝集客とは考えていない。春節祭や中秋節などをやっているが、伝統文化をアピールするだけでいいのではないか。

現在全国各地では中華街をテーマパークととらえ、集客のねたとする計画が花盛り（立川市～

グランディオ立川、お台場〜リトル香港、千歳、仙台、下関、名古屋、韓国ソウル)。集客のために中華街を作ればいいというのは非常にイージーな発想だ。中華街はテーマパークではない、コミュニティである。

コーディネータ：おっしゃりたいのは、中華街の生活、行事をたまたまイベントというかたちで外部の人が見に行くということだと思う。

長崎（行政）：行政がどういった支援を地元に来るかということから参加させていただいた。集客によるまちづくりとは少し違うと思うが、まちの歴史・個性などを大切にすることをめざしている。

長崎：400年前からある「おくんち」は、資金難で一時はやめかけたこともあったが、なんとか観光協会などが協力して存続させている。祭りは行政指導ではなく、民間ががんばらなくてはならないと考えている。

### <まちづくりと活動資金>

コーディネータ：イベントなどをやるにしても、お金が重要。どうやれば行政から引き出せるのか。

横浜（行政）：行政が支援できるためには、まちの主体性、地元によくの人が参加している（一部の人の意見ではない）、地元にとどのくらいの熱意があるか、広範囲な効果が期待できるか、などがポイント。



新潟：「食の陣」は民間と行政が協働で立ち上げた。

コーディネータ：横浜の場合はイベントを集客として考えていないということであれば、行政に対してはハード面だけの支援をお願いしているのか。

横浜：来街者調査、中華街のイメージ調査（中華街以外のエリアでのアンケート：県から500万円）などを行っている。行政の支援策はいろいろあるというのが実感。

南京町：南京町の事業者の意識調査、通行量調査を行っており、まちづくりの資料としている。商工会議所、中小企業センターなどすぐ支援してくれる。大学の研究者もよく来ていただいている。ただ、こちらから聞かないと行政からは出てこないのは何とかならないか。南京町は出来るだけこれらを利用していきたい。

### <リピーターを呼ぶ仕掛けづくりについて>

南京町：イベントは外部への宣伝と共に、内部の意識固めの効果もある。

南京町は、異空間・非日常の空間ということで客が来ているが、何回も来てくれることが大事。そのために、インターネットや南京町通信によって、情報提供や外部の「南京町ファン」づくりを行っている。絶えず、参加してくださいということをアピールしていきたい。若者の参加も促したい。

横浜：私だったら南京町の混雑中には行こうとしない。神戸では、どれだけ地元の人 coming か。横浜中華街では、地元でどれだけ支持されるかをめざしており、例えば、ラーメン横町はもう地元で支持されていない。横浜中華街では、地元を大切に個店のレベルアップを啓発している。

南京町：南京町は、地元の支持が高い。ただ、露店については批判も多く、意見が2分しており、難しい問題だ。

コーディネータ：横浜の場合、アンケートに答えてくれるモニターは固定しているのか。入れ替えているのか。

## 地域分科会 C

横 浜：横浜中区役所でモニターがあり、地元が呼ばれて意見を伺っている。

南京町：今回細街路の舗装は協議会で協議したり、その前の広場整備ではアンケート調査を元に行っている。

横 浜：横浜では、特に年齢層のデータが欲しい。若者に迎合したくない（渋谷にはなりたくない）。南京町はどうだろうか。

南京町：南京町は調査では中年に支持されている。ただ、ごらんの通り若者が多い。立ち食いの問題、良い解決策がないだろうか。

一 般：南京町の若者立ち食い、ごみごみしていることなどはいただけない。異国情緒が損なわれる（作詞している立場として）。

一 般：南京町は好きだ。雰囲気。大阪に勤めていたときは、神戸に来て豚まんなんかよく買ったものだ。

一 般：三木市は金物のまち。買い物は神戸によく行き、神戸とのつながりが強い。神戸は勉強の対象だ。イベントで言えば「金物まつり」をやっている。広範囲から客が来ている。「大宮八幡宮」のまつりは宗教色が強いということで行政の援助はないが、御輿の担ぎ手がいないなど問題が多い。何らかの手だてが必要だ。

### <人的資源の育成>

コーディネータ：最後に人的資源の育成について議論したい。

新 潟：まず私が楽しむことが大事。そうすれば、下はついてくる。

函 館：まちを自ら楽しむことが大事。古い建物の調査活動など、自ら興味あることを行っている。

南京町：イベントによってマスコミ等に注目され、それにより若手ががんばるようになった（目立ちたがり）。人材の育成につながっている。

イベントにより、外部との人のつながりができることで、内部組織の活性化にも役立っている。おもしろいことをやっていけば、次の人材が出てきそうな感じがある。

できるだけ、若手に任すことに心がけている。

コーディネータ：長崎では多くの市民が観光地を案内できるというか、地元ファンが多いという風に聞いている。

横浜も若手に任せてますよね。

横 浜：横浜中華街発展会では、長が50代半ばで、理事会の各年齢層がバランスがとれ、若返りに成功している。毎月1回の理事会への出欠も厳しくチェックしている。

### <まとめ>

コーディネータ：各都市それぞれで事情が異なっているという感想。

行政から支援を得るためにはアピールするものが必要とのことであるが、中国文化を含む外国文化はアピール力があると思う。

中国文化は、参加型のイベントなどを通してだんだん日本と距離が近づきつつあるなかで、どう自分たちを見失わないでいるか、どうポリシーを大事にしていくかがまちづくりのポイントであると思う。

システムや方法など、今回出た意見のなかで各都市が使えるものは使ったらよいと思うが、結果としてまねではなくて違うものが出てきてほしい。

来年再来年もこういう会議が続いていくと思うが、あの町はこんな風に進歩したとか、こう変わった、という風に、冒頭に申しました写真集を見るように見ていただけたらいいのではないか。この会議の成果を、それぞれの今後のまちづくりに生かしていただきたい。これで私の締めくくりの言葉とさせていただきます。どうもありがとうございました。



椅松庵



菊正宗酒造記念館

## 震災で全壊の谷崎邸「鎖瀾閣」

# 岡本梅林に復元



阪神大震災で全壊した文豪谷崎潤一郎の旧邸「鎖瀾閣(くらんかく)」神戸市東灘区岡本七丁目を復元しようと、研究者や地元住民らが募金活動を展開しているが、神戸市は十八日までに、谷崎が愛した岡本梅林公園の一部を鎖瀾閣再建のために無償貸与する方針を決めた。約一万三千人の賛同署名など市民らの熱意を受けたもので、海を見下ろす梅林に、文豪が自ら設計した和・洋・中折衷の個性的な唐館がよみがえることになった。

谷崎は大正十二(一九二二)として知られる鎖瀾閣は、三(三)年、関東大震災後の海・文関が中国風二階唐室が乱を避けて関西に移住、昭和純和風などユニークな造和十九年に疎開するまで、昭和三年秋から二年半、阪神間で計十三回の転居をしか住まなかったものの、繰り返した。「岡本の家」阪神館の住宅では唯一、自

ら設計した。当時、谷崎は西洋崇拜から日本の古典に興味を抱く転機にあたり、「こで『夢(たぐ)』唯小虫や『花(まんじ)』を執筆、書斎は戦後も残り、米国人夫妻が住んでいたが、震災で昨年二月に撤去された。谷崎研究家のたつみ都志・武庫川女子大教授らの呼び掛けて、谷崎ファンや地元住民らが鎖瀾閣復元準備

## 地元住民の熱意にこたえ 神戸市が土地提供

年四月に一万三千人の署名を市に提出、土地提供などの協力を依頼した。たつみ教授らはかつて住吉川の景観保存運動に取りくは副会長の広岡俊さん(078・4599・2660)が自ら設計した

会(松見房之助会長)を結成。昨年七月三十日の谷崎のモデルになった谷崎の旧邸「椅松(いしよ)庵」の移築、保存に成功。椅松庵は今回の震災でも補強が効いて倒壊を免れた。鎖瀾閣の設計図は現存していないが、多くの写真と見学した学生のイラスト図を活用、当時の建築物を知る大工棟りよりも協力を約束し、技術的には再現が可能という。市では、かつての岡本梅林を模した岡本梅林公園内の土地を無償貸与し、鎖瀾閣の再建をバックアップする方針。建物は公園施設として認定するが、運営は準備会のメンバーらで行う民間施設となる。市側も「文学館的な施設として運営してもらえれば、より多くの市民に喜んでもらえる」と期待を寄せる。たつみ教授は「鎖瀾閣は梅林と海を愛した谷崎の夢の表現だった。移築先の岡本梅林公園は現在地以上のロケーション。神戸の文化復興のシンボルとして復元し、資料も含めて一般公開したい」と話している。準備会では一口三千円で復元後の入場券を配る募金のほか、建材やかわらの提供も受け付けている。詳しくは副会長の広岡俊さん(078・4599・2660)に

## ○ 横浜市（鈴木 嗣麿：山手まちづくり協議会）

- 横浜市も大きくなり、現在18区ある。18区のうち、港に面している区は鶴見区、神奈川区、西区、中区、磯子区、金沢区の6区で、3分の2は水辺に面していない区である。水辺に面しているところと内陸部ではいろいろな面で温度差もあるし、目指す方向も違ってくると思う。
- 一昨年から、官民協働のパートナーシップ型モデル事業（25事業）に取り組んでいる。



→民間と行政の一般的な習慣ややり方の違いがあり、いろいろなことをひとつひとつクリアしながら進めていくことが難しかった。全てのパートナーシップ型モデル事業が成功したとは思わないが、今後もパートナーシップの事業を進めていくためには、行政も市民団体もお互いをよく知って、お互いの持っている力をいかに引き出していくかということが重要である。

- 横浜市も神戸と同じように住民と来街者の問題を抱えており、この3日間を有意義なものにしたいと思っている。

## ○ 長崎市（橋田 克男：山手地区景観まちづくり協議会）

- 来年、日蘭交流400年をむかえ、新潟と同じように様々なアーバンプロジェクトが打ち出され、また、長崎新幹線を目指した駅舎などの改築工事も着々と進んでいる。
- 長崎は世界で2番目に原爆の洗礼を受けた都市であり、その原爆の歴史を伝える平和公園の雰囲気や大事にしたまちづくりをしている地区があり、今回そこから参加者がいる。
- 古い面だけでなく、新しい文化も学びたいと考えている。



スライド上映 “翔べ、次なる100年へ!!”



受け付け風景

## ③ 地域分科会

---

日 時 : 平成11年10月10日(日) 9:30~17:00

- 《分科会 A》 テーマ : にぎわいのまちづくり/歴史的環境と都市活動  
場 所 : 神戸市立博物館ほか(旧居留地周辺)  
参加人数 : 26人
- 《分科会 B》 テーマ : まちのアイデンティティ/居住文化と商業・観光活動  
場 所 : 異人館倶楽部パートIIパラディアームほか  
(岡本~魚崎郷~北野・山本地区周辺)  
参加人数 : 48人
- 《分科会 C》 テーマ : 動のまちづくり/外国文化と産業共生  
場 所 : 廣記商行ほか(南京町~トアロード周辺)  
参加人数 : 23人

## ④ 各都市代表者会議

---

- 日 時 : 平成11年10月10日(日) 18:00~19:00
- 会 場 : 旧居留地15番館
- 議 題 :
  - 開港5都市景観まちづくり会議規約について
  - 開港5都市景観まちづくり会議神戸大会大会アピールについて
  - 来年度開催都市について

## ■ トークインの記録

### 1. 問題提起

討論に先立って、高田先生とたつみ先生から問題提起がされた。

- 田園都市（庭園都市）－1898年、イギリスのハワードが提唱。レッチワースなど。

人間が住むのに適しているのは大都会よりも農村とまちが一緒になったほうがよい。

→環境は確かによいが現在訪れると元気がなく、住むことだけを目的につくられたのでおもしろくない。

- 千里ニュータウン、学園都市－高度成長期につくられた住むためだけのまち。



→緑、コミュニティを併せ持つ寺や神社が追い出された。

快適ではあるが、おもしろくない。

岡本、魚崎、北野－100万都市のちょっと離れた環境のよいところにできあがってきたまち。

東京の山の手は庭をつくる余裕がなかったが、阪神間の住宅地は庭のある住宅があり、少し歩くと商店街があるような豊かな住環境である。

→半径500m以内で生活できる住みやすい住宅地。

⇒ 住宅地の中で、医者やお店など生活に必要なものが近隣にあるということが魅力ある住宅地の条件のひとつである。

- まちなみをつくっていくときにはその土地でとれた建材を使うといいまちができる。

・イタリア、南フランス、スペインといった地中海沿岸都市

－白い石を積んで家をつくっているので、地面からそのまま立ち上がったようなすまいが建ち並び、周りとの関係がなじみやすい。

→その土地の素材、白を基調

とした色で煉瓦は使わないといった要素がある程度制約されているので、好き勝手につくっても目になじみやすい。

- ・ 日本も昔はその土地の材木、壁土を使って家を建てていたが、高度成長期以降、新建材がどんどん入ってきて、デザインも何百年もかかって培ってきた土地の形にあったものとは違うものになってしまった。



問題提起者のたつみ都志先生と高田公理先生

⇒ 新しいまちをつくるときに故事来歴（歴史的背景）を壊さずにつくれないのか。

（土地の氏神やご先祖の墓があるといった過去からのこだまが聞こえてくるような場所、あるいは非常に長い歴史の中で我々がそこに生きているんだと思わせられるような要素があるのではないか）

→計画的につくられた公園、公民館や話し合いの場を設けるだけでは何かがまちに足りない。





## (第2部) 記念講演

講師：大森 一樹 氏 (映画監督)

テーマ：「開港都市文化と市民活動」 — 神戸のまちと映画とわたし —

### □大森一樹氏 プロフィール

1952年3月 大阪府生まれ。  
六甲学院高校(神戸市灘区)から京都府立医科大学へ進学。  
大学在学中より映画製作。「暗くなるまで待てない」が話題に…  
'78「オレンジロード急行」でメジャーデビュー。  
「風の歌を聴け」や「花の降る午後」など神戸のまちを舞台に  
数多くの作品を手掛ける。  
阪神・淡路大震災では、芦屋市の自宅マンションが被災、マン  
ション復興委員を2年間務めるなど被災体験を有する。  
代表作「恋する女たち」「ヒポクラテスたち」「継承壺」「ジ  
ューンプライドー6月19日の花嫁」など多数。  
兵庫県芦屋市在住。



### ◆都市と映画 — 映画に表れるまちに対する想い◆

- 神戸で何本かの映画を撮っており、一度自分でもこういう機会に、神戸を扱った映画を自分で検証してみたいと思っていたので、引き受けました。
- いろいろな映画監督がいる中で、僕は都市と映画ということにこだわってきた方だと思っている。
  - 都市と映画は密接な関係があり、都市の中に映画表現のテーマを見いだしているような監督は世界にはたくさんいる。
  - 未来の都市を舞台にしたアメリカ映画の「マトリックス」では、アメリカの未来都市をオーストラリアのシドニーで撮影している。普通アメリカの未来都市はニューヨークかロサンゼルスで撮られることが多いが、アメリカの未来をシドニーで撮ったというあたりが監督の都市に対する思い入れが感じられる。
- 映画にとってその舞台がどのまちであるかということは、映画のテーマ、表現したいことの中身にも関わる重要なことである。

### □ヒポクラテスたち

- 自分の京都府立医科大学時代のエピソードを連ねた、これから医者になっていく若者(医学生)の青春群像を描いた映画。
- 閉鎖された医学界の中での医学生の生活と、京都の四方を山で囲まれた盆地という地形の中で生活しているというイメージが重なり、また、その盆地を流れる鴨川が取り囲まれた中の青春の安息の場所というイメージになっており、鴨川の土手や橋が主人公たちの生活の場として、ドラマの背景になっている。
- この映画が神戸でなく京都の映画であるというのは、何となく映画がまちを選んだという理由にもなるような気がする。



平成11年10月10日(日) 18:00~19:00

旧居留地15番館にて

## 出席者

〈函館市〉	陳 有崎 (元町倶楽部)
	松村由紀夫 (函館市都市デザイン課)
〈新潟市〉	小柳 行弘 (新潟花絵プロジェクト実行委員会)
	阿部 保夫 (新潟市都市計画課)
〈横浜市〉	鈴木 嗣麿 (山手まちづくり協議会)
	小田島鉄朗 (横浜市都市デザイン室)
〈神戸市〉	野澤太一郎 (旧居留地連絡協議会)
	賈 英生 (神戸南京町景観形成協議会)
	片瀬 範雄 (神戸市都市計画局計画部)
	倉橋 正巳 (神戸市アーバンデザイン室)
	石中 久仁 ( " )
〈長崎市〉	橋田 克男 (山手地区景観まちづくり協議会)
	佐藤順次郎 (長崎市都市景観課)
	松尾 龍太 ( " )

## 議題1. 開港5都市景観まちづくり会議規約について

平成5年に発足したこの会議において、規約制定が長年の懸案であった。

昨、平成10年10月5日に神戸市で開催した代表者会議において、規約案について議論し、これを反映させた訂正案を神戸市(事務局)より提案し、参加者の了解を得た。

## 開港5都市景観まちづくり会議規約(案)

## (名称)

第1条 本会議の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議」(以下「景観まちづくり会議」という)と称する。

## (目的)

第2条 景観まちづくり会議は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸及び長崎の5都市(以下「開港5都市」という)の市民が、景観、歴史、文化、環境などを大切にまもり、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力あるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資することを目的とする。

## (活動)

第3条 景観まちづくり会議は、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

- (1) 情報の交換
- (2) 共通の課題に対する調査研究
- (3) その他、前条の目的達成に必要な活動

## (組織)

第4条 景観まちづくり会議は、開港5都市のまちづくりを実践する市民団体等で構成する。

2 必要に応じ、関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。

## (会議)

第5条 景観まちづくり会議の会議は、定期大会及び代表者会議とする。

2 定期大会は、原則として年1回会長が召集し開催するものとし、代表者会議は、会長が必要に応じ召集することができる。

## (役員)

第6条 景観まちづくり会議に会長を置く。

2 会長は、定期大会開催都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等の代表者をもってこれに充てる。

3 会長は、本会議を代表し、会務を総理する。

4 役員の任期は、定期大会終了から次期定期大会終了までの間とする。

## (事務局)

第7条 景観まちづくり会議の事務局を会長都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等に置く。

## (規約の改正)

第8条 本規約の改正は、景観まちづくり会議の代表者会議の議決によらなければならない。

## 附則

本規約は、平成11年10月 日から施行する。



## 議題 2. 開港 5 都市景観まちづくり会議神戸大会の大会アピールについて

神戸大会実行委員会より原案を提案し、全都市一致で採択された。

### 開港 5 都市景観まちづくり会議神戸大会 大会アピール（案）

折しも居留地が返還されて100年の節目にあたる1999年、秋、開港という歴史と国際性を共有する5つの都市の市民が、ここ神戸に集い、“開港都市の未来（あした）を探る／共生する地域文化”を基本テーマに、熱く語りあった。これまでの100年を振り返る一方で、この資産を礎に、次なる100年に思いを馳せた。

過去5回にわたって引き継がれてきたこの会議では、5都市の市民が交流を深め、その刺激を各地におけるまちづくり活動にと昇華してきた。本大会も、明日からの我々の活動に大きな示唆を与えてくれたと確信する。

5年前、この地、神戸は大震災に見舞われ、安全・安心なまちづくりの重要性を再確認するとともに、成熟したまちとは、個性的で自律するまちであることを、復興の過程で学んだ。そしてこれは、私達、市民の主体的な取り組みと連携があってこそ実現するものである。さらに、こういったまちとまちの、あるいは都市と都市の個性が互いに魅力を研ぎあうとき、各々の発展を持続可能とするし、真の安全も確保しうる。

このような認識に立ち、今日、ここに集った我々は、本大会の成果を各自のまちに持ち帰り、豊かなまちづくりに向けての努力を各々の地で継続していくことを互いに確認し、宣言する。再び会することを約して。

1999年10月11日

開港 5 都市景観まちづくり会議神戸大会 参加者一同

## 議題 3. 来年度開催都市について

長崎市において開催することを決定。

## 5 フリーセッション

---

### こうべまちなみ再発見TOUR

(社)兵庫県建築士会神戸支部 共催

- 日 時 : 平成11年10月10日(日) 10:00~16:00
- 内 容 : 参加者だけの特別施設見学や入館料割引特典つきの  
都心エリア タウンウォッチング
- ル ー ト : 新神戸~北野~トアロード~旧居留地周辺
- 参加人数 : 917人

### 開港場フォーラム

(神戸市立博物館・居留地返還100周年記念特別展『神戸・横浜“開化物語”』関連事業)

- 日 時 : 平成11年10月10日(日) 13:30~16:30
- 内 容 : 外国人居留地の設けられていた横浜・大阪・神戸・長崎から研究者らが  
集まって開催したフォーラム (一般参加可)
- 会 場 : 神戸市立博物館地階講堂
- 参加人数 : 139人

### ライトスケープ KOBE TOUR

- 日 時 : 平成11年10月10日(日) 19:00~21:30
- 内 容 : 神戸の代表的な夜間景観資源を訪ねるバスツアー
- ル ー ト : ビナスブリッジ~ハーバランド~メリケンパーク~旧居留地~ポートアイランド北公園
- 参加人数 : 90人



# こうべまちなみ再発見TOUR

(社)兵庫県建築士会神戸支部 共催

日 時 : 平成11年10月10日(日) 10:00~16:00

内 容 : 参加者だけの特別施設見学や入館料割引特典つきの  
都心エリア タウンウォッチング

ル ー ト : 新神戸~北野~トアロード~旧居留地周辺

参加人数 : 917人

## 特別施設見学のお知らせ

本日のタウンウォッチングに参加された方々に対して、次のような特典がありますので、ご活用ください。

	施設名	特 典
北野・山本	鳳凰鶏の館	入館料300円 → 無料 入館時に専用受付に入館券をお渡しください。 混雑時は一般入館者と一緒に並んでください。
	萌黄の館	入館料300円 → 無料 入館時に専用受付に入館券をお渡しください。 混雑時は一般入館者と一緒に並んでください。
	葦橋総会	非公開異入館 → 14:00まで特別公開 入口は両側階段を上ったところですよ。
	神戸北野美術館	通常入館料500円 → 200円(大人・学生) 受付でマップを提示すれば割引料金になります。
	ベンの家・英国館 ・洋館長屋・パナマ領事館	4館共通入館料2000円 → 500円 ベンを家の受付でマップを提示すれば割引料金 になります。なお、1館ごとの割引はありません。
	シュウエケ邸	通常入館料500円 → 300円 受付でマップを提示すれば割引料金になります。
旧居留地	神戸市立博物館	受付でマップを提示すれば割引料金になります。 大人 : 800円 → 600円 高校・大学: 550円 → 400円 小学・中学: 300円 → 150円 入館者には、ミュージアムショップで記念品を進呈
	神戸らんぷミュージアム	特別展のマッチ展は入館無料 常設展は無料入場券を先着500名に配布済み
	神港ビル	1階部分通り抜け可能
	商船三井ビル	1階入口部分見学可能
	東遊園地	アンケートにご回答いただいた方には、もれなく 参加記念品を進呈 ゴール受付: 14:00~16:00

## 見TOURのしおり

クポイントは設けておりません。モデルコ  
を歩くのではなく、時には寄り道をしながら  
1点で再発見してください。  
「有料」をはじめ「トアロード・クラフトアー  
「フェスティバルマンス」いま、居留地浪漫”  
づくりイベントが盛りだくさんです。イベント  
でください。

自分のペースで事故のないように安全に  
産建築物やまちなみなどのウォッチングを

1側通行で、車には充分注意し、信号を  
也もありませんので、のぞきこんだり、建物  
します。

います。また、ゴミは必ずゴミ箱に入れてく  
ださい。

4. コース内には、スタッフが常駐しています。ご不審・ご不明の点は、おたずねくださ  
い。また、スタッフの指示には、必ず従ってください。特に、公開建築物への出入  
り、見学、交通量の多いところなどご注意ください。

5. 万一事故が発生いたしましても、主催者は一切責任を負いません。

□次の語り部広場でまちの歴史やまちづくりの取り組み等について地域で活動  
されている方による説明があります。

地区名	説明場所(語り部広場)	時間(適時開催)
北野・山本地区	北野町中公園(萌黄の館東隣)	11:00~13:00
トアロード地区	トアガーデン	12:00~14:00
旧居留地地区	旧居留地15番館西隣広場	13:00~15:00





# こうべまちなみ再発見TOUR

新神戸オリエンタルシティCS

START

① 風見塚の館

M42年築。旧トーマス邸。北野・山本地区で残存する唯一の煉瓦造。全体にドイツ風の様式を採用し、スレート葺の尖塔の上に立つ風見塚は北野町の象徴となっている。昭和53年度の重要文化財に指定された。阪神・淡路大震災で大きな被害を受けたが、煉瓦の脱脂防止工事をした上で修復されている。



② 朝霧の館

M36年築。アメリカ建築師H.シャープの邸宅。『白い真人館』と呼ばれていたが、平成元年に建設当初の姿に復元され現在の色に塗り直された。西側の正門を入ると左右に異なったデザインの出廊があり、その中央の屋根に赤褐色化粧組みの煙突がある。昭和55年度の重要文化財に指定された。



③ ラインの館

T4年築。旧ドレワエル邸。下見板の館(ライオン)が美しいところから付けられた。階段室の側面に彫像を配する広間型の平面をとっている。主屋南面は、1、2階とも複柱式ベランダで、1階は開放、2階は手すり。ガラス建具が入っている。



④ ショウエケ邸

M29年築。もとはAN.ハンセルの設計による自邸。敷地の北側に寄せて主屋と付属建を建て、南に広い庭をとっている。南面は中央にベランダ。左右にベランダつづきを対称に配置しており、2階ベランダは開放で、イスラム風のスタンデルや手廻りに特色がある。



⑤ 神戸北野美術館

M31年築。旧アメリカ領事館。敷地の南と西は道路に接し高い石垣と取り、南面中央に彫像を設けている。敷地の北半分に主屋を建て、その西側に付属建がついている。現在は、永田晴の作を展示している。



⑥ 単館校舎

M42年築。旧ガンセン邸。主屋は南北棟で東西に角居が突出し、角居裏側に玄関ポーチが延く。玄関を入ると、地下が西側の能役ホールまで伸び、南側に応接間、飯間、食堂の3室。北側に炊事室等のサービスエリアをとる。ベランダはドリークックオーガー式角柱。南面1階棟裏りにベイウィンドウを設けている。



⑦ トアガーデン

敷地を全棟したJR北神戸駅送留地の一部を『神戸市まちづくりスポット創生事業』を活用し、地域コミュニティ活動の拠点とする。まちかど広場を(3年間の暫定利用で)整備した。

⑧ 神戸旧居留地15番館

M13年築。旧居留地に唯一残る居留地時代に建てられた館。建設当時は1階が事務所、2階が住宅に使われており、南側にベランダをもつコロニアスタイルの建物。平成元年、国の重要文化財に指定されたが、阪神・淡路大震災で全壊。震災後、免震構造とした上で復元。現在は飲食店として使われている。



⑨ 商船三井ビル

T11年築。テラコッタの外壁への使用、フラスター内装への使用、種別方式を強制換気方式とするなど、日本初の技術が多く採用された建物で、アメリカン・ルネッサンス様式を基本としている。名建築の多い居留地にあって一際目をひく傑作である。若き日の村野藤吾がデザインを担当した。



⑩ 海岸ビル

H10年築。阪神・淡路大震災によって被害を受けたビルを建て替えたものであるが、もとの建物の外観を修復・保存している。旧居留地は大正7年築で、鉄骨コンクリート造4階建。設計は河合浩哉。当時ウエーの新建築雑誌をもってツェツェの影響を受け、ラザロフに建築師の線を配り入れるなど和風の要素も混入させていたことが目される。



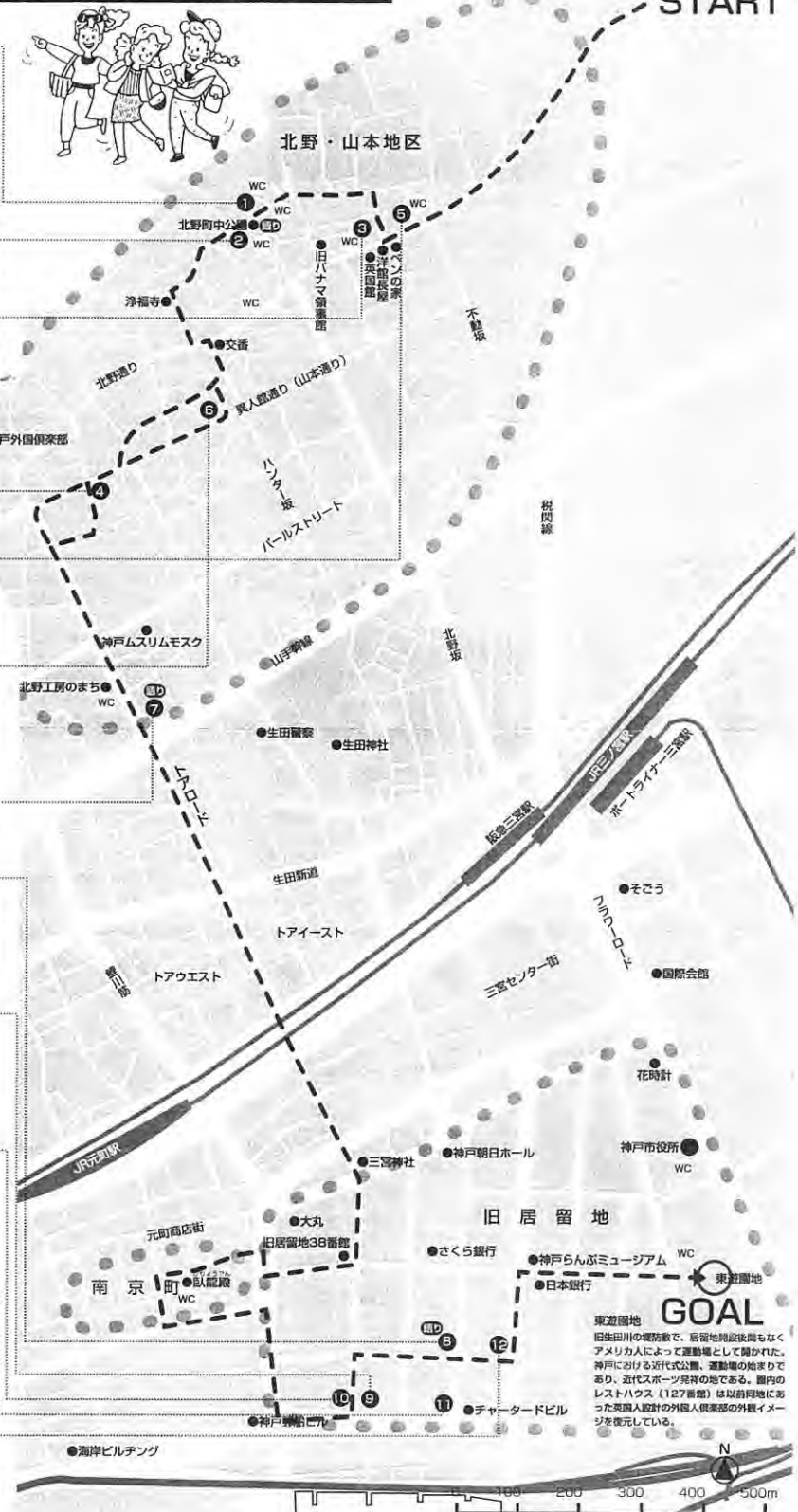
⑪ 神港ビル

S14年築。通風や採光のための中庭をもち、アメリカン・オフ・イスビルの形態をとる。アル・デコ調のジグザグ文様をもつ煙突が美神通の景観にアクセントを与えている。特に自立柱際もなく、各階的かつ堅実な設計がなされているが、外装の石積みもつ質感や空間部分の景観などが重要な印象を与える。



⑫ 市立博物館

S10年築。旧横浜正金銀行神戸支店。正面に6本のドリア式半円柱が並び、他の側面には壁柱を配した古典主義様式の建群。外装はすべて御影石であるが、構造は鉄筋コンクリート造。銀行の事務室としての面影は、二階吹き抜けのホールや天井の彫刻にしのばれる。



ゴール

東灘園地  
旧生田川の埋立地で、居留地施設跡もなくアメリカ人によって運動場として開かれた。神戸における近代式公園。運動場の地蔵りであり、近代スポーツ発祥の地である。園内のレストハウス(127番館)は以前同地にあった英人設計の外国人倶楽部の外観イメージを復元している。

【北野・山本地区】外国人が好んだ山手の住宅地

慶應3年(1868)、兵庫開港が実現したものの、開港直前の政情不穏から居留地の整備がこれまでにまにあわず、政府は、北野村など生田川から宇治川の間の9ヶ村を、外国人が日本人に混在して住むことを認めた「雑居地」に指定した。現在の北野・山本地区の形成はここに端を発している。



明治初期には、居留地と結びついている山手トアロードと呼ばれる新道や山手の東西道路が整備され、それまで農村地帯であった山麓部の市街化が進む。働く場である居留地に対し、住む場としての山手一帯の性格が強められていくのである。そして、いわゆる「異人館」とよばれる外国人住宅の建設は明治30年代が最も盛んで、その後も花隈から廓内に至る広い範囲に、日本家屋と混在しながら昭和初期にまで及んだ。これら異人館の特徴は、広い敷地にゆったりと建てられ、意匠的にも優れたものが多く、また一つ一つの建物の意匠や色調が異なっていることがあげられる。

第二次大戦時の被災では、神戸の市街地は大きな被害を受けることになる。この中で現在の北野町・山本通の一部は幸運にも部分的な被災にとどまり、異人館も残された。しかし、昭和30年代のホテル進出や40年代のマンション建設ブームの中で、異人館の多くが建て替えや老朽化によって失われている。

昭和50年代に入ると、マンション建設にかかわってブティックや飲食店などが山本通り(異人館通)や北野坂を中心に立地しはじめ、都心とは趣を異にする商業地として新たな性格の一面をつくりだすことになる。一方、異人館が点在する静寂な住宅地のもつ異国情緒に、ファッションブルなイメージが加わったことから観光地としての性格も強め、昭和52年にNHK連続ドラマ「風見鶏」が放映されたこともあって、以後に年間150万人を超える観光客が北野・山本地区を訪れている。

阪神・淡路大震災では、煙突の崩壊など、どの異人館も大なり小なり被害を受けたが、現在ではほぼ全館が修復を終え、再び賑わいをみせている。

【南京町】異国情緒の中街

南京町の歴史は、明治元年(1868)の神戸港開港直後といわれ、清国(当時の中国)が条約を結んでいなかったことから、中国人達は政府が定めた外国人居留地の西側に集まって住むようになった。



昭和初期には「万国の珍品が揃う」と大変な賑わいをみせたが、昭和20年の空襲で大打撃を受け、その後は衰退の途をたどることになる。

昭和56年の区画整理事業を契機に、南京町振興組合が復興計画を立て、昭和57年から神戸市の協力のもとに、街路や広場等の環境整備を進めたことから、再び賑わいをとりもどし、長安門(S.60)、中国獅子像(S.63)、臥龍殿(H.5)などもできて、現在では神戸を代表する観光スポットとなっている。平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、ここも大きな被害を受けたが、半壊した長安門は翌年に復興し、細道も平成9年に石畳に生まれ変わり一層の賑わいをみせている。

【トアロード】異人さんの通勤道

トアロード地区は、南端の三宮神社と北端の神戸外国倶楽部を結ぶ南北約1.2kmの細長い商店街である。



もともとトアロードは外国人居留地のあった明治の頃、山手の住宅街から浜手のオフィスへと通う外国人の通勤道路として開けたものである。その名は昔、山手の正面に東亜ホテルがあったことから通りの名前が定着したといわれるが、丘の道といった意味でトアロードと呼ばれるようになったという説などいろいろな説がある。現在、トアロードには3つの商店街があり、通りに面して約170軒の店舗や業務施設が立地している。店舗の業種構成としては居留地時代からの信用に今に伝える老舗と、最先端のファッションを扱うおしゃれなブティックが同居し、エキゾチックな街並みを形成している。また商店以外に、外国倶楽部や在日外国人のための幼稚園である聖ミカエル国際学校がある他、平成8年3月で廃校となった旧北野小学校(昭和6年建設)は、レトロな校舎を再利用し教室を工房にするなど、「北野工房のまち」として再活用され、賑わっている。

【旧居留地】近代神戸発展の源

旧居留地は、兵庫開港(1868年)に伴って、旧生田川(現在のフラワーロード)西岸の川尻25.6haに設けられた外国人居留地である。人家の多い既成の兵庫を避け、当時の神戸村が選ばれたもので、近代神戸の成立もこれに端を発している。イギリス土木技師J・W・ハートの設計によって建設が進められ、西歐的な思想の下に、街路、遊歩道、公園、街路樹、下水道、街灯などを備えていた。また、126区画に整然と分けられた地所は標準1,000㎡の規模をもち、1から126番までの地番がつけられた。現在でも街路パターンはほとんどそのまま残されており、敷地割もあまり変わっていないし、地番はそのまま使われている。煉瓦でつくられた当時の下水道も部分的にみることができる。しかし、居留地時代からの建物の大半は既に失われてしまい、唯一、15番館のみが残されている。(15番館は阪神・淡路大震災で崩壊したが、平成10年4月、再建復元された。国指定重要文化財)



明治32年(1899)、居留地制度が解消される。その後、徐々に外国商館にかかわって日本の海運会社、商社、銀行などが旧居留地を中心にその西部の栄町一帯に進出し、国際的近代都市としての神戸の都心業務地を形成することになる。

第二次大戦後、昭和30年代後半からの高度経済成長時代には、東京への本社機能の集中化や神戸都心の東進化といった流れがあり、業務地としての地位を相対的に低下させ、それまでの活気は停滞をみせることになる。ただ、このこともあって、旧居留地内の西部や栄町には、大正から昭和初期にかけて建てられた、「近代洋風建築物」が現在でもいくつも残されている。そして昭和60年代にはいって、これらがもつ重厚さが見直され、旧居留地ではブティックや飲食店として活用されるなど、以前とは少し性格を異にするにぎわいを再びみせるようになる。

平成7年1月17日の阪神・淡路大震災では、旧居留地内の建物106棟のうち22棟が解体されるなど大きな被害を受けたが、現在ではその多くは再建され、以前にも増して魅力的なまちなみが再現している。

イベント情報

- 10/ 9土~10/11 月 開港5都市景観まちづくり会議神戸大会  
まちづくりをテーマにした開港5都市による会議。  
基調講演、シンポジウム、タウンウォッチングなど  
主催：開港5都市景観まちづくり会議神戸大会実行委員会
- 北野・山本地区  
10/ 9土~10/10 祝 神戸ジャズストリート  
北野町界隈の複数の会場にてジャズコンサートを開催。(有料)  
主催：神戸ジャズストリート実行委員会、他
- 10/30土~10/31日 10/31日 北野・山本まちなみフェスタ'99  
神戸ラブラリーパール・ウォークラリー
- トアロード・三宮・元町  
10/ 9土~10/10 祝 トアロード・クラフトアートフェア'99  
手作りのテキスタイルや陶芸、絵画、工芸品の展示販売など。  
会場：トアロード  
主催：トアロード・クラフトアートフェア実行委員会
- 10/ 9土~10/25 月 元町ミュージックウィーク  
クラシック、ポピュラー、ジャズなどの演奏会やコンサート。  
会場：元町商店街と周辺  
主催：元町ミュージックウィーク実行委員会
- 11/26金~12/ 5日 シャンテ神戸'99
- 南京町  
12/12日~11/26 金 ランタンフェア

- 旧居留地  
9/11土~10/11 月 フェスティバル・マンス「いま居留地浪漫」  
居留地バスポートや街角パフォーマンスなどのイベントを開催。  
会場：旧居留地内 主催：旧居留地連絡協議会
- 9/11土~10/11 月 神戸・横浜「開化物語」  
ハイクラス神戸を形成してきた居留地を再発見する特別展  
会場：神戸市立博物館 主催：神戸市立博物館
- 9/11土~10/11 月 100年祭タウンギャラリー  
まちかどのさまざまなビルに、古い時代の写真パネルを展示して、旧居留地の歴史を紹介します。  
会場：旧居留地内  
主催：旧居留地連絡協議会
- 9/11土~11/ 3月 「神戸マッチ物語」展  
文明開化のシンボルのひとつ「マッチ」をテーマとした特別展  
会場：神戸らんぷミュージアム
- 10/ 8金~10/11 月 居留地LIGHTING NOW '99  
ランドマーク的な建物をライトアップ  
会場：旧居留地内 主催：旧居留地連絡協議会
- 10/12火 会場：東遊園地
- 11/ 3祝~11/21日 神戸100年映画祭 会場：神戸朝日ホール 他
- 12/19日 クリスマス・コンサート 会場：さくら銀行
- 12/13月~12/26日 神戸ルミナリエ 会場：旧居留地・東遊園地



こうべまちなみ再発見TOUR

主催：開港5都市景観まちづくり会議神戸大会実行委員会 共催：(社)兵庫県建築士会神戸支部



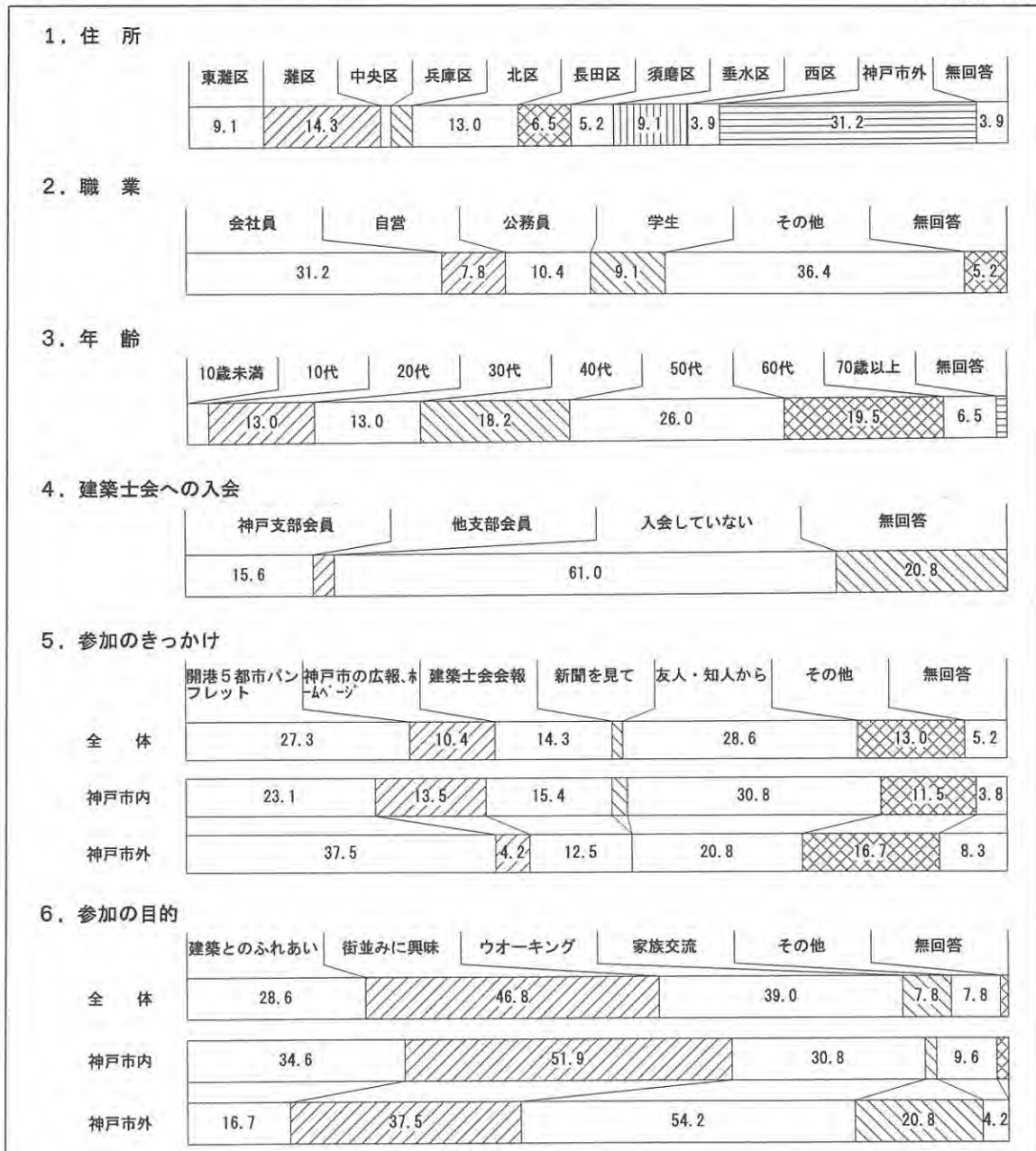
《参加者と施設入場者数》

●総参加者数：917名

- 風見鶏の館 : 426名
- 萌黄の館 : 348名
- 華僑総会 : 131名
- らんぷミュージアム : 68名
- 市立博物館 : 10名

《参加者アンケート調査の結果》

回収数：77票



## 7. 再発見TOURの評価

	期待以上	期待通り	期待以下	無回答
全体	24.7	67.5		5.2
神戸市内	25.0	69.3		3.8
神戸市外	25.0	62.5		12.5

## 8. 居留地返還100周年の認知度

	知っていた	知らなかった	無回答
全体	59.7	39.0	
神戸市内	73.1	25.0	
神戸市外	33.3	66.7	

## 9. タウンウォッチに参加して、再発見した内容（自由記入）

## （まちなみ）

- 旧居留地地域の整然とした区画割に対し、北野地域の街並みが狭い道路や雑然とした区画割が続くなど、対照的である。
- 石の街の旧居留地の景観。
- 日頃何げなく通り過ぎていた所をゆっくり見ることができた。
- 少し地理がわかった。異国情緒あふれるまちだとあらためて思った。
- 今まで通ったことがない北野の路地を通り楽しかった。
- どこを歩いてもその場が写真のバックになるように思った。

## （まちの変化）

- 昔の家並みがなくなり、若者が中心の街になったと思った。
- 地震後の変わりように、観光目的の若い人にはそれだけの価値があると思うが、われわれ老人にはちょっと敬遠したい。
- 北野の街並みが変わっていた。
- 震災以後、まちなみがどんどん変わっていつている。新旧のビル（家）を楽しく、また、残念に思いながらウォッチングした。
- 地震後の復旧で歩道が以前よりも広く美しくなっていた。
- 震災後新しいユニークなお店ができていた。
- 震災復興の様子。

## （まちの歴史）

- ウォーキングでスピード・距離を競うだけでなく、まちなみから歴史を再発見する。
- 今でも古い街のおもかげが残っていること。
- 旧居留地の地番が古いままであること（語り部さんより）。

## （歴史的な建造物など）

- 普段見れなかった建物の中を見ることが出来た。
- 風見鶏の館の食堂、地下の厨房、リフト、収納家具等、現在でも通用する建物、古い時代の建築家の力量が今も生きているのがわかった。
- いいところがいっぱいあったが、風通しがあまりしていない所、よごれの所も“カビ”のにおいもつたいないし、見にいっても気分が違う。
- 坂がきつく住んでいる人々は大変だと思う。100年近い建築で今も美しいのが、今の建築とくらべてみるとすばらしい。
- 異人館街を昔よく歩いたが、華僑総会は初めてでよかった。震災後見事に復旧され、見るからに美しく、公園内などの金星の像はすばらしかった。
- 異人館でよく見るとすばらしいタイル貼りだったところなどあり、よく見ないと見落としてしまう。すばらしい絵が飾ってある家などがとても良かった。
- 北野工房のまち、北野小学校が変わった姿を見て感慨無量。
- 北野の路地の良さ。商船三井の手動エレベーターと地下の天窓。十五番館の横の下水管。

## （施設）

- 北野工房に初めて行き、いろいろなものを見て、又来て紙すき等の体験をしてみたいと思った。
- 北野工房は小学校を上手に使っている。
- 北野小学校の跡が工房のまちとして生まれ変わり、多くの店が各々特徴を持った商品を創り出しているさまは、将来に期待をもてるものと感心した。
- 北野工房、よく工夫されている。
- 北野工房のまちと近くのモスク寺院を知った。
- 北野工房のアイデアはすばらしい。過疎対策と

して全国的に評価されると思う。ジャズストリート、特に北村英治カルテットは楽しかった。

- 北野町…街並みがきれいになった。北野工房のまち…旧小学校を上手に利用している。旧居留地をうまく活かしている。(海岸ビルなど)
- 神戸らんぶミュージアムのことを知らなくて今回初めて中に入ったが、いろいろなあかりがあり楽しかった。
- ランプ館。ジャズストリート。
- トアガーデンのもよおし会場を初めて見た。

(イベント・市民活動)

- まちづくりイベントが鎖のように連なっていて、魅力にあふれる街を体感した。
- 語り部の話で、普段知ることのない生の声が聞けたことがよかった。まちづくりを定着したものにするには、こういった生活者の声を反映する仕組みが大事なことがよくわかった。

(その他)

- 観光地としての神戸のすばらしさを発見できた。
- 街角で音が流れ、音が色づいていた。都心はどこにもぎわっていた。休日のひとときを納得させうるまち…歩いてみないとダメ(わからない味がある)→路地も含め生活の息づかいがわかる。車(駐車)が多い。ポイント毎にスポットがある(吸引施設、歩く目標)。→広場、民間の緑(塀・花木)が大切だと思った(ホッとさせる)。人が予想外に山⇄海方向に歩いていたこと(幹線道路が東西に走っていて神戸が印象づけられるが、人が山⇄海方向に歩くことで神戸のよさが味わい深く感じられる)。
- 知らなかったことが多かったので楽しかった。
- 各エリアをイベントでつなぐと、本当に北野から居留地までが趣きの異なったテーマパークのような感があり、しかも徒歩の距離内にあることを実感。トアロードの南北線から西側への展開が期待される。

- 住吉川がジョギング、子どもの水遊びなどによく利用されているということを知ったこと。北野町の賑いの大きさと観光客向けの店が非常に増えて変わっていく様子。酒づくり道具の細かい工夫。

- 都市に対して様々な地域の人・行政側の意見が聞けて、自分の意見以外の沢山の物の考え方がある。それは1つの都市から始まった話題のはずが、全ての日本の都市につながる問題提起であったと思った。現状を嘆く必要はない。今後のことを意識を持って考えていこうと思う。

(高田先生のおっしゃっていた「田園都市」の間違ひについては驚き。それは訂正しなければいけないことなのでは) 再発見をもう1つ、無知の知(自分に対する)

- タウンウォッチングというよりも人間ウォッチングもでき、とても有益であった。
- 再発見ではないが、いつも思っているが、タバコの歩きながらの喫煙、ぼい捨てが多い。この対策。センター街は商店街が清掃しているのを見るが、元町商店街は人の流れもセンター街より少なく、道幅が広いこともあるが、自転車の乗り入れと同じくタバコのぼい捨てが多い。いずれも商店街で幾人かが立ち回って注意し、よい街にしてほしい。(タチの悪い者は軽犯罪法で罰することも)
- 北野町のノースモーキングを知らなかった。
- 異人館にて、①どこも日当たりがよい、②居間・寝室・食堂等かなり広く余裕がある、③生活環境から見て坂道がかなり急勾配である。震災の影響が残っており、メインストリートに面した所に更地が目につく。街路ところどころにある地図、看板は目標と方向性がはっきりして分かりやすくよかった。増設してほしい。
- 神戸に住んでいながら日頃あまり行かないところに歩を運べたのでよかった。
- 神戸に人が増えた。

10. 神戸の街並みで好きなところ(自由記入)

(海・山・坂)

- 山と海が近くにあるところ。
- 山と海の見える風景。
- 西洋風の街並み、海、山が近くにあり、北野を歩いてその後海を見ながらモザイクへ。
- 山と海。
- 山手から見た神戸の風景。
- 港廻りの海と山。
- 海もあり山もあるところ。
- 町が山と海に囲まれていて、山から眺める景色が最高。
- 山と海がせまっており、様々な景色が楽しめる。
- 海・坂・山が身近に感じられるところ。
- 山から海へかけてのうねり。
- 六甲山。

(港・ハーバーランド)

- ポートタワー。メリケン波止場。
- ハーバーランド、中突、メリケン
- ハーバーランドからメリケンパーク。(2)
- ウォーターフロント一帯。
- 港。
- ハーバーランドのモザイクから海にかけて。
- ハーバーランド。
- ハーバーランドのモザイクからの夜景。
- 海岸通り。
- 観光化・商業化されていない港。

(北野・異人館)

- 異人館。(2)
- 異人館街。
- 北野の街並み。

- 北野町。(5)
- 北野町のうら街。
- 北野町、山本通。(2)
- 異国情緒。新旧の混在。
- 昔の街並みにふれられるところがすばらしい。
- 和洋折衷で日本のどのまちにもないアイデンティティーが感じられるところ。
- ワクワクして歩けるしつらえ。
- 家々のちょっとしたお洒落な装い、暮らしぶり。
- 坂(誰も歩いていない路地)
- 震災でつぶれながら修理したりして、やはり神戸らしさは残してほしい。北野は昔の外人の暮らしがしのばれる。

(旧居留地)

- 旧居留地。(4)
- 居留地の建物を見ながら、街歩き。
- 居留地(電柱がないからいい)。
- 旧居留地界限。(2)

(トアロード)

- トアロード。(4)
- トアロードから居留地周辺が特に良い。
- トアロードがいろんな店がでていたりして楽しかった。

(須磨・垂水)

- 須磨離宮道周辺。(2)
- 須磨から明石までの海岸通。
- 須磨水族園周辺の松林風景、海辺風景。
- 舞子公園。須磨浦公園。
- 垂水や海岸線。
- 垂水漁村。

(西北神)

- 北神地域の農村地帯や西神地域の田園風景が楽しい。
- 西神ニュータウン。
- 太山寺周辺。

(その他のまちなみ)

- 御影のお屋敷街。(2)
- 岡本、住吉川沿いの古い邸宅街。
- 住吉・岡本方面の古い屋敷。
- 灘の酒蔵。(2)
- 震災前の神戸の酒蔵。
- 阪急六甲の北側の住宅街。
- 新神戸から阪急六甲に至る山裾一帯。
- 六甲山を背景とした街並み。
- 六甲駅から新神戸駅へ至るバス道より北側の辺り。ここは車の通りが少なく、しかも便利な場所。閑静な住宅地とはこのことかと思っている。
- 南京町。
- 元町。(2)
- 栄町筋の一本南側。トアウエスト。
- 県公館前。
- 古い家並みがあるところ(震災でほとんどこわれてしまったが)。



受け付け(新神戸オリエンタルホテル前)



風見鶏の館



地元住民による説明(北野町広場)



地元協議会員による説明(ノザワ15番館前)



ゴールポイント(東遊園地)のスタッフ-疲れ気味です

- 中央筋商店街。
- 花と緑の多い街。
- 緑の多さ。
- 緑が多く、町の中に銅などでできた美術品や石の彫刻などあり、目の保養になる。

- 整然としていてわかりやすい。
- 街にゴミがない。
- 建物の変わったところがいろいろ増えればうれしいが、今は少しだけでもうれしい。違った建築を見るのが好き。

## 11. タウンウォッチングへの要望（自由記入）

（開催を頻繁に、期間を長く）

- スタンプを1日ではなく、数を多くして1か月で回ったり、送れば何か当たるとか。
- 春と秋に年4、5回企画していただきたい。
- 今回のものをもう一度ゆっくりみたい。毎年行ってほしい。
- 毎年このような企画をしていただきたい。色々再発見できてよかった。
- 四季ごとに実施してほしい（年間4回ぐらい）。本日はとてもアカデミックであったと思う。この形式でいろいろ続けてほしい。講師はやはり大学関係者であってほしい。
- 神戸は広い。市民が気軽に参加できるウォッチングを計画してほしい。御影の時もよかった。

（いろいろな場所で、知られていないところでも）

- 元町・三宮周辺から出て、毎年異なった場所での「タウンウォッチング」を。（例）99年は元町・三宮であった。2000年は垂水・舞子、2001年は魚崎・石屋川、2002年は須磨付近のように、町・農村いろいろまぜていってほしい。
- 今回見た以外のところ。
- もっと神戸の隅々まで歴史、建築を調査し、市民に教えてほしい。
- よく知られている観光スポットではなく、地元の人しか知らない穴場を歩くなど。
- 都心以外の生活者の顔が見える身近な場所。
- 市街地西部（須磨、垂水方面）の史蹟や観光スポットを対象に、一般参加のウォッチングを企画してみてもどうか。
- シルバー対象ののんびり歩けるところ。
- 神戸の歴史に関わる場所のウォーキング。
- 一般公開されていない建築物の見学。
- 私は健康を保つために毎日散歩（1万歩程）をしている。時々北野工房へ立ち寄って観光客に聞くが、異人館街の散策であるようだ。それに間も若干余裕があるようで、諏訪山の展望台（ビーナスブリッジ）等、山からの神戸を見学してもらうのもよいのでは。この点の案内がほしい。
- 新しくなった神戸の酒蔵めぐり（新酒の時期）。
- 川崎・三菱造船所見学。

（親切な説明を）

- ポイントでの係りの方の説明がほしい。
- 歴史の街としての説明。
- 街について詳しい人と一緒に歩ければ全てが発見なので、いろいろ参加してみたい。
- 知っているようで良く知らない町、新しく生ま

れ変わった町を尚良く知りたい年齢になったので、説明を受けながら「タウンウォッチング」ができれば幸いです（有料でも可）。

（参加の記念になる品がほしい）

- スタンプラリー、ピンバッジのように参加したことが残る、思い出せるような企画。建物、夜景、歴史、健康とかテーマを打ち出して、それをシリーズで企画したらどうか。
- タウンウォッチングのスタンプ帳。

（他のイベントとの併催を）

- 今回は観光地としての神戸を見ることができたが、普段あまり見ることの少ないかくれたところを見学できればいいと思う。家族で参加するのに、子ども向けイベントが少しでもあれば、参加しやすい。（例）写生大会、ゲームなど
- ジャズフェスティバル。居留地の歴史を生かしたオフショアマーケット。
- 良い企画だった。今回のように民間のイベント等がセットで企画されるとよい。
- 小さな子どもが参加できるような企画を楽しみにしている。

（事前PRをもっと）

- 始めて企画を知ったのが昨日だった。企画が良かっただけに、もう少し広告活動を行ってほしい。
- 見学コースの特長をあらかじめPRする。
- 映画フェスティバル。タウンウォッチング開催のPRをもっとしてほしい。

（その他）

- 一般士会員の参加を喚起できる企画。
- バラバラではなく、知らない人どうしてグループで行動できるかというと思う。
- 家族向き、中高年ともっと山も歩きやすく。表示がわかりにくい。
- 地図をもっと詳しくしてほしい。時間をもう少し長くしてほしい。
- ゴールの場所をもっと近くにしてほしい。今日は時間がなくてあまりゆっくり見れなかった。
- 車が多いので、周囲を見回しながらゆっくりと歩くことができないが、神戸の街では仕方がないと思う。が、震災のあとがきれいになったのが良いと思った。
- 歴史的なタウンウォッチ・講演があれば良い。
- 今日初めてだがとても良い人選だし良かった。
- 今回のようなだれでも気軽に参加できるものを企画してほしい。

## 開港場フォーラム

(神戸市立博物館・居留地返還100周年記念特別展『神戸・横浜“開化物語”』関連事業)

- 日 時 : 平成11年10月10日(日) 13:30~16:30
- 内 容 : 外国人居留地の設けられていた横浜・大阪・神戸・長崎から研究者らが集まって開催したフォーラム (一般参加可)
- 会 場 : 神戸市立博物館地階講堂
- 参加人数 : 139人

さる10月10日(日)、幕末の通商条約などに基づいて開港され、外国人居留地の設けられた横浜・大阪・神戸・長崎から研究者が集まり、当館で「開港場フォーラム」が開かれました(9月18日には横浜でも開催)。居留地が日本に返還されて、昨年がちょうど100周年に当たるのを記念した特別展「神戸・横浜“開化物語”」に合わせ、居留地が日本の近代化に果たした役割などについて、再認識する試みです。

フォーラムでは、まず日本近代史の研究で有名な梅添昇氏(大阪大学名誉教授)が、「外国人と日本の近代化」と題して記念講演。日本における居留地の成り立ちから返還に至るまでの経緯などが、中国の居留地(租界)と比較しながら述べられました。そして「日本は欧米諸国から不平等条約を押しつけられたが、技術・社会制度・風習など西洋の優れた文明は取り入れた。居留地時代は、外国人のものの考え方や生活などが日本人に理解できるようワンクッション置いた時期であり、文化摩擦から文化融合を進めたのが居留地だった」という締めくくりでした。

続いて、井上琢智氏(関西学院大学)の司会によって、横浜からは斎藤多喜夫氏(横浜開港資料館)、大阪からは西口忠氏(桃山学院年史委員会)、神戸は田井、長崎からはブライアン・パークガフ二氏(長崎総合科学大学)が、各居留地の特色などについて研究発表を行い、会場の参加者からは熱心な質問が相次ぎました。発表の概要は以下のとおりです。

横浜 — 安政6年(1859)開港。居留地は日本最大規模で、外国人人口も最多。江戸・東京の外

港として、さまざまな面で中央権力の統制を強く受けた。生糸輸出などによる外貨獲得と技術移転の窓口であり、居留地は、貿易のノウハウ、舶来産業の知識・技術を“闘いながら”学ぶ対象だった。

大阪 — 慶応3年(1868)開市(のち開港)。港湾施設の問題などから、明治初期にほとんどの外国商社が神戸へ移った後、教会・学校・病院などが設けられ、キリスト教伝導の拠点となった。

神戸 — 慶応3年(1868)開港。居留地では、大阪とともに明治32年(1899)の返還まで、外国人による自治が存続。約9年早く開港した横浜・長崎での“試行錯誤”の経験がさまざまな面に生かされた。居留地より広い雑居地の存在も特色。東の横浜と並び、日本を代表する貿易港として発展。

長崎 — 安政6年(1859)開港。江戸時代唯一海外に開かれた窓口だったため、外国人との交流の歴史は古く、開港に際しても人々にはそれほど抵抗がなかった。また、地理的に大陸に近いので、多くの商人や外交官が上海から来航し、初期には開港場の中で最も賑わった。

居留地は、不平等条約を背景に存続しましたが、外国人の権利や活動を制限する制度でもありました。日本は近代化を進めていくために「居留地を緩衝帯にしなから世界市場に対応していった」のです。居留地は、21世紀の国際交流にいくつもの「指標」を与えてくれました。最後に、このフォーラムの開催にご尽力いただいた方々に、心からお礼申し上げます。

(田井 玲子)



## 【1. 居留地のあらし】

### 「居留地」とは

英国は、1833年東インド会社の中国及び東インドの貿易独占権を廃止、国内の自由貿易制度を整えた。次いでアヘン戦争の結果、1842年に南京条約を締結。貿易港を広州一港とし行商と呼ばれる特権商人にのみに許されていた中国の貿易制度を打破、香港の割譲と上海等5港の開港を実現した。これら欧米列強の産業革命の進展に伴う市場開拓の一連の動きが、日本の開国を促すことになる。

幕府は、日米和親条約締結4年後の安政5年(1858)米・蘭・露・英・仏の5か国との間に修好通商条約を締結。条約に基づき翌年には、神奈川(横浜)・長崎・箱館を開港。慶応3年(1868)に兵庫(神戸)・新潟を開港、大阪・東京を開市する。開港・開市とともに設けられたのが居留地で、条約締結国の外国人の居住や通商のための専用特別区である。初めの頃は、当時の混乱した時代背景もあって日本人と外国人とのトラブルを避けるための隔絶された空間であったが、すぐに両者の交易を中心とする交流の場へと変貌していく。居留地では、不平等条約の根幹の一つである領事裁判権が認められており、日本の主権が及ばないなどの問題が存在していた。しかし、一方で居留地は我が国の西洋文明受容の窓口であり、近代化の拠点のひとつでもあった。(KK)



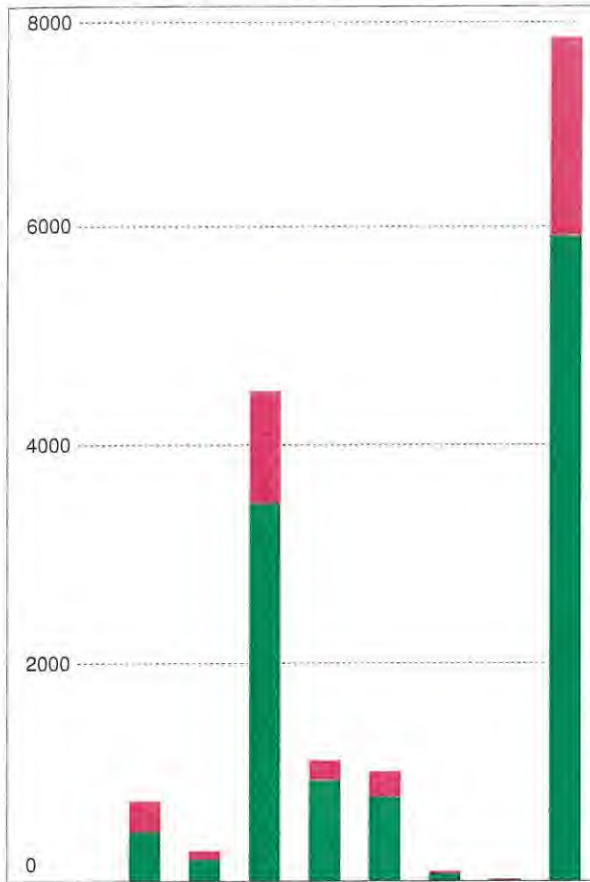
1 居留地境界石  
幕末～明治時代  
横浜の山手居留地の境界に立てられていた石標



居留地が日本側に返還されたのは明治32年(1899)年。長いところで40年間、短いところで約30年間居留地は存続した。

▶ 開市開港場の外国人人口

(単位:人)



	東京	大阪	横浜	神戸	長崎	函館	新潟	総計
女	280	77	1,024	180	230	22	11	1,824
男	457	203	3,470	930	775	71	9	5,915
計	737	280	4,494	1,110	1,005	93	20	7,739

1888(明治21)年  
典拠:「外務省記録」7門1類5項23号(本邦各港居留外国人戸数口数取調一件)

注1) 1888(明治21)年末日の数字。ただし、神戸は1889年1月調査、新潟は1889年1月10日届。

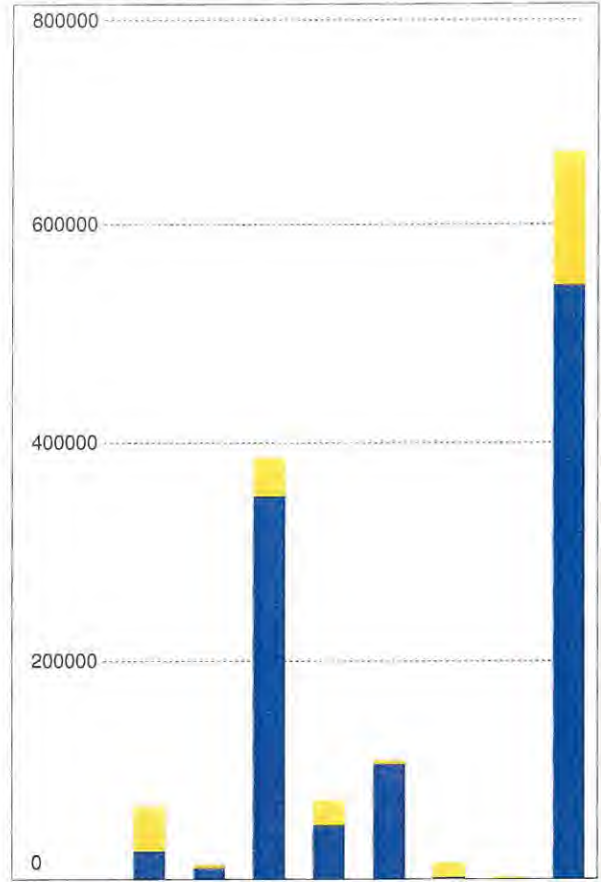
2) 新潟は夷港を含む。

3) 各地の外国人人口のうち、中国人の割合は次のとおり(小数点以下四捨五入)。東京(15%)、大阪(51%)、横浜(66%)、神戸(68%)、長崎(70%)、函館(61%)、新潟(0%)。

※「開港場 横浜ものがたり」1999年より転載

▶ 外国人居住地面積

(単位:坪)



	東京	大阪	横浜	神戸	長崎	函館	新潟	総計
居留地外	41,060	3,115	35,636	23,332	2,973	13,216	2,282	121,814
居留地	25,842	10,415	351,256	49,645	105,787	1,730	0	544,475
計	66,072	13,530	385,892	72,377	108,700	14,348	2,282	688,088

1888(明治21)年末現在  
典拠:「大日本帝国内務省第四回統計報告」(明治22年)

※「開港場 横浜ものがたり」1999年より転載

各開港場の明治25年次輸出入額の比較

(単位:千円)

	輸出	輸入	計		輸出	輸入	計
函館	783	12	795	大阪	1,259	5,547	6,806
新潟	15	5	20	神戸	21,296	30,698	51,994
横浜	61,552	31,329	92,881	長崎	3,337	2,732	6,969

※東京築地居留地は開港場ではないので記載なし。

※典拠「税関百年史 上巻」(昭和47年)

開港

開港は、乍らとて1854年の日米和親条約で最初に外国人に開かれた港である。天保6年(1855)の本地神奈川開港により、次第ながら外国人が住み始めたが、居留地は設定されておらず、幕府の任意であった。後に、申請の随うて港が居留地として設定されたが、居留地はここを離れそれまでの開港場の跡地が通行として定着した。当初から、居留地自体は成立しておらず、外国人の活動は日本の地方官の手には握られていた。(KK)

4 改正新報 延慶宮城神船図

開港場外人、寄寓地  
開港後(1859)

各居留地の中でもっとも日本人の集積地としての位置が守られていた。居留地は多くは幕府として扱われており、外国人のほとんどは幕府に属していた。(開港前と開港後の居留地)



2 開港時代の証

(「フールム」氏個人アーカイブ)より  
明治28年(1895)  
開港場は幕府に支配されていたが、開港後文藝の交差点として、文藝活動の拠り所として発展した。



5 高層ビル建設地の航空写真



新街

「新街(新街)外人居留地」は、開港を契機として、開港の存否を争奪した。実質的にこの港を開いたものであった。この新街・開港には居留地を設けず、土地は日本人との開港場との相対性であることが定められ近代性も存在しなかった。新街は、開港当初こそ多くの居留地があったものの、外国人はほとんど居留せず、開港場(居留地)というのがある程度あった。(KK)



6 新街(新街)外人居留地(明治時代)



7 かつては賑わっていた新街(現在)

5 新街市街地図  
開港後(明治28年(1895))  
外国人は数々の居留地やその高層ビルが林立していた。他の居留地とは全く異なる状況であった。新街は、開港場としてではなく、居留地として機能していたのである。

横浜

日本人の居留地、開港後から本格的な居留地が開かれ、世界中の人口を繋ぐことで交流し、多種多様な人種・文化の人々が住むようになった。やがて人口の増加とともに余剰地及び居留地も拡大、日本を代表する国際都市として貿易を中心とする経済圏を築き、日本の近代化に果たした役割は大きい。明治元年(1868)には、居留地委員会が組織され自治行政を開始するが、内部の自治体も併設あり。明治2年には自治権を認められ、明治10年(1877)には居留地に対する日本の行政権が完全に回復した。(KK)



11 横浜開港 200年 1865年

フランス人技師アリゴがフランス公使ロッシュの依頼によって作成した横浜最初の本格的な行政計画の実施地図。右側のピンクの部分は日本人街、左側の黄色い部分が居留地。その中央の青い部分はフランス人居住区。開港後の居留地は幕府で、外国人と日本人が共に居住交流する場であった。



12 開港当時の横浜 200年 1864年

日本人は、許可を得れば居留地の中で居住し、営業することができた。また、居留地と外国人居留地の間には、横濱二橋に動く日本人も多かった。居留地は、港から外国人と日本人が共に居住交流する場であったのである。



13 現在の横浜中心部

長崎

開港後開港しない文久元年(1861)には居留地が組織され、居留地委員の監督の下に自治行政が実施されていたが、居留地の内政的な問題のため明治2年(1869)に廃止された。最初の居留地建設は、本街道の地手と奥山手・奥山手の造成で、その後下町・横濱町居留地の設立、出島や元町居留地の開入などがあって明治3年(1870)に居留地が完成した。各区域の住み分けが進むと、それぞれ特色ある街並みを形成した。長崎居留地の特徴は、中国人の割合が非常に高かったことである。(KK)



20 長崎居留地  
高層ビル街 1892年

長崎居留地(地図では)開港後(1869)に居留地委員の監督の下に自治行政が実施されていた。居留地委員の監督の下に自治行政が実施されていた。



21 大瀬海岸と奥山手ラッセル線 (「日本名所写真集」より)

居留地中  
大瀬海岸の海辺沿いは、道徳や商業教育の場として、内政面は商業地区。そして奥山手は教会や学校のある住宅街となった。



22 長崎居留地建設地の航空写真

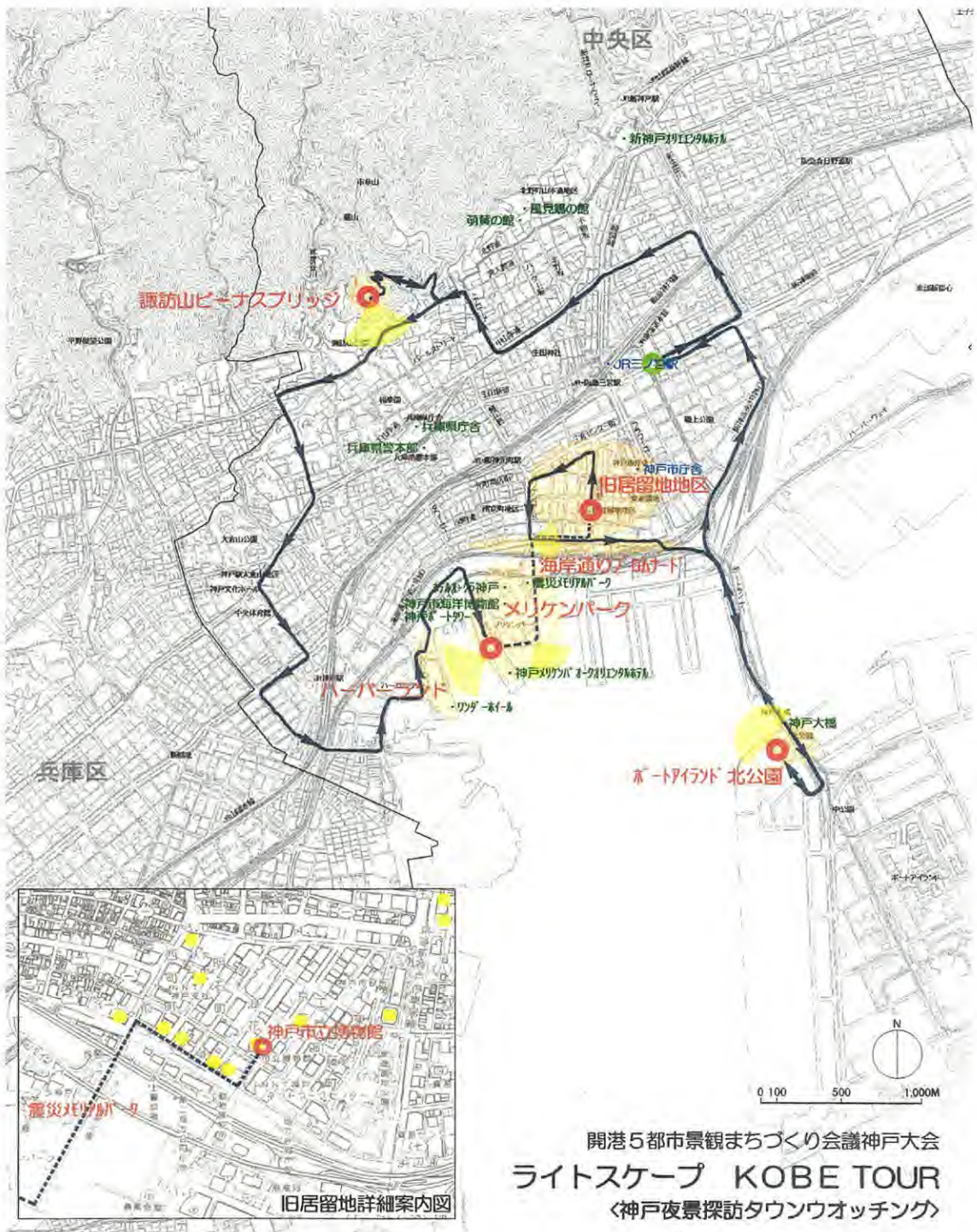
# ライトスケープ KOBE TOUR

日 時 : 平成11年10月10日(日) 19:00~21:30

内 容 : 神戸の代表的な夜間景観資源を訪ねるバスツアー

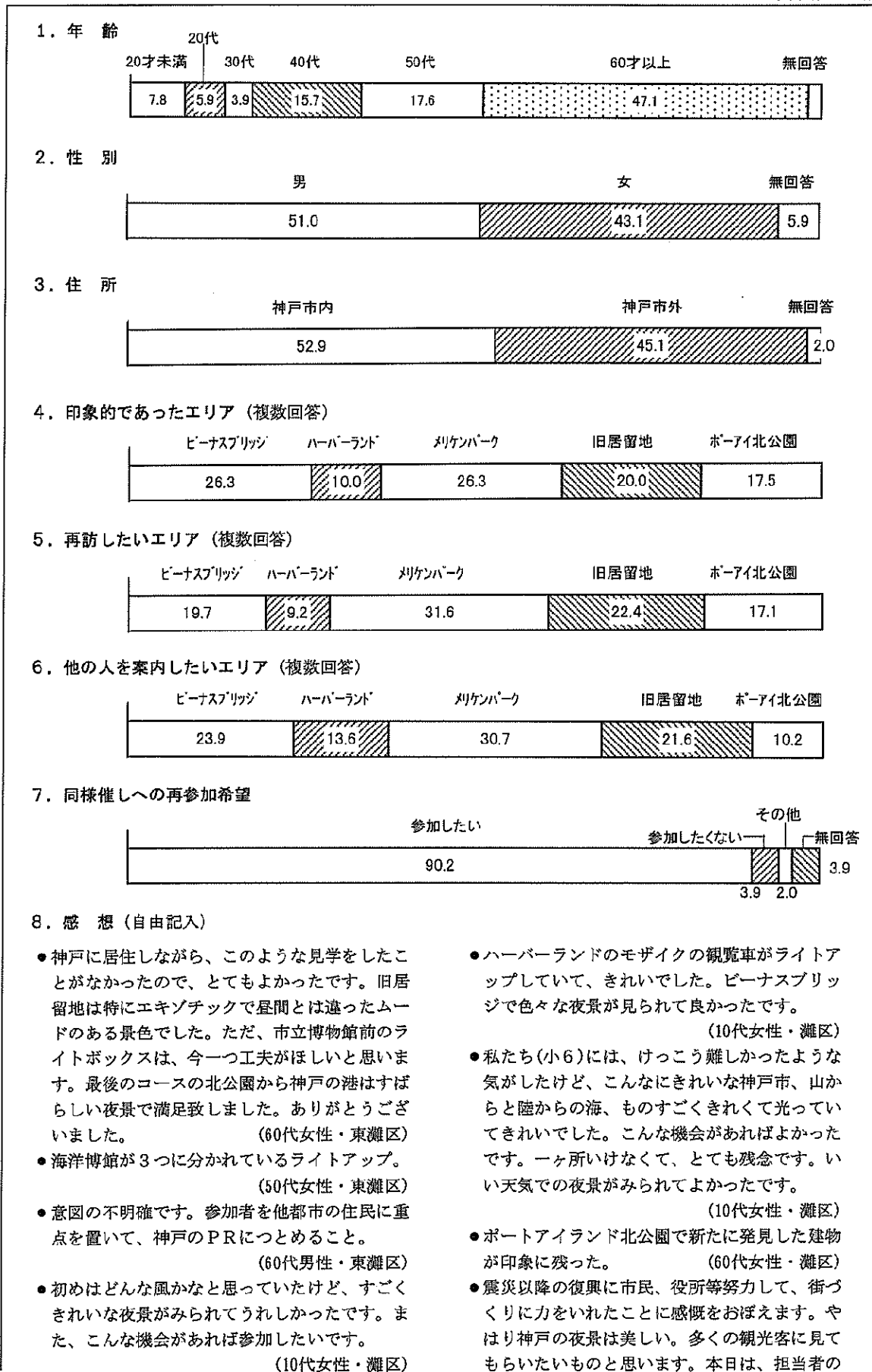
ル ー ト : ピーナスブリッジ~ハーバランド~メリケンパーク~旧居留地~ポートアイランド北公園

参加人数 : 90人



《参加者アンケート調査の結果》

回収数：51票





ビーナスブリッジ



ポートアイランド北公園から



ポートアイランド北公園・みなと異人館



旧居留地・チャタードビル

方、皆様へありがとうございました。

(50代女性・中央区)

- バス使用でしたから、一同で回れました。やはり、夜景がきれい。(50代男性・中央区)
- ハーバーランドにある観覧車のとなりの旧信号灯が印象的に残った。(60代女性・中央区)
- 夜の旧居留地を初めて見ました。昼よりも良かった。(60代男性・中央区)
- ライトアップ中でもあり、とても楽しく見せてもらいました。もう少し時間があれば、よかったですと思う。(50代女性・北区)
- ふだん何気なく見ていた景色も、ライトアップされた夜に見る角度を変えるとすごく美しくすばらしいと思った。藤原さんの解説付きで歩いていると、婦人大学で勉強していたことがはっきりとして、有意義なひとときでした。市の方々のお世話が親切で、感謝しています。ありがとうございました。(60代女性・北区)
- ポートアイランド北公園からハーバーランド、メリケンパーク、山なみをみた夜景は、ライトアップされていたためとはいえ、すばらしかった。特にモザイク廻りが目を引いた。(60代男性・北区)
- ライトアップされていたり、夜景のきれいな所にはカップルが多い。居留地のライトアップは建物全体ではなく、部分だけを照らしている。(20代女性・長田区)
- ビーナスブリッジは、あまり観光客に知られていないと共に交通の便が悪い。そして、諏訪山

公園に登る道をもう少しわかりやすく広く警備して欲しい。車だけでのぼるのではなく、気軽に散歩できる様に、また展望台をもう少し拡大して展望視野を広げては？(60代 長田区)

- 神戸の美しい夜景を見ることができ、神戸と合わせてすばらしいひとときを過ごさせていただき大変にありがとうございました。婦人大学に通っていますので、色々な講義を受けておりまして、大変勉強になりました。メリケンパーク、ハーバーランドと美しくライトアップされてすてきな神戸です。震災がありました、活力ある神戸と感じました。

(50代女性・垂水区)

- 旧居留地の建物をわかりやすくライトアップ。週末の夜景、景観の再発見、震災後の気がつかないまちの魅力が、光おだやかにひっそりとたたずみ、おちつく夜景を満喫しました。(40代女性・西区)
- 空港などつくらなくて、基幹の道路が先だと思います。(道は狭く駐車場がない)(40代男性・西区)
- 是非、仮設のライトアップを恒久的なライトアップにして神戸の観光の資源にしてほしい。面的なスポットを作ってほしい。(40代男性・西区)
- 個々の施設にとっても魅力がある。県庁・県警など大規模施設にライトアップを協力してもらおうべき。(市役所も含めて)(40代男性・西区)
- 金星台：かつては、赤い青い灯が多かったと思

うが、今は落ち着いた。ハーバーランド：行けなかったのが残念。大森氏の煉瓦のレストランの夜景を見たかった。メリケンパーク：若いカップルの語らいに自分の昔を思い起こしました。旧居留地：ライトアップも良いがポニーアイ北公園：ウォーターフロントにありながら交通アクセスの無いことが残念。山にも海にも恵まれた神戸でありながら、金星台もポニーアイ北公園も歓楽街との接続が無いのが残念です。神戸大橋がシドニーのハーバーブリッジの様に歩行で渡れたらポニーアイ北公園もつながりが出来るのではないのでしょうか。

- 昼と夜とそれぞれにツアーを作って、車イスでも行けるようにバスをいすなしでフロアーにするとか。※ポートアイランド北公園は、きれいだけど、寂しすぎて、ポートライナーがあるのもっと色々イベントを考えて店をだすとか。※外国人ツアーも参加してもらって意見を聞くとか。※一泊で回ったりとか。※ライトアップをガス灯にするとか。(30代女性・守口市)
- 昼間と違い夜になると、同じ建物でも全然違った感じになるのがわかってすごくよかった。また、こういうツアーがあれば行きたいと思います。(30代女性・此花区)
- 街全体が暗い感じがします。看板がわかりにくい。(40代男性・西宮市)
- 夜の神戸の街(中心地の夜店の多い所は別として)の光(街灯)が意外と暗く感じたが、光害のため、光源を加減しているという説明で納得したが、夜道を歩く場合のことを考えるとどうかなとも思う。交通渋滞、係りの人、運転士さん御苦労さまでした。(60代男性・明石市)
- 神戸のパワーと夢のある町づくりは、なかなかできるものではないと思う。がんばってください。(新潟市)
- 旧居留地の中心部のみ別色でライトアップしてあるのが、面白かった。ライトアップは、水への映りが大切であると感じた。(50代女性・横浜市)
- 神戸の北に山、南に海で間隔も狭いことが却っ

て良い景色となり、山の上から見る風景と海の向うから見た逆の風景の対比が面白いと思う。

(60代女性・横浜市)

- 仮設ライトアップを見て、担当者の血のにじむような苦勞が伝わってきた。常設化へは、大変な苦勞があるかと思いますが、お互いにがんばりましょう。(20代男性・横浜市)
- 神戸市の関係者の方、ありがとうございました。(60代男性・横浜市)
- 港異人館の建築・所有者等説明書が欲しい。2階のよらい戸一枚の蝶つがいがはずれている。早急に修理が必要。(60代男性・横浜市)
- メリケンパークの広場のような広いスペースはゆとりがあり、そこから見た観覧車、ホテル、タワーなどがとても美しかった。また、旧居留地の古い洋館風の建物は、居留地の雰囲気をも十分に漂わせており、市民と一体となったまちづくりができていると感じた。(20代男性・長崎市)
- ナイトスポットに若い人たちが大変多くいて、ふるさと意識を育てるという意味では、非常にうまくいっていると感じました。楽しめるまちというのが一番だと思います。(40代男性・長崎市)
- メリケンパークのライティングは、造形的に素晴らしい。(50代男性・長崎市)
- 皆さんのホスピタリティーに感謝します。ありがとうございました。
- 意外に町が暗かったこと。単体のライティングも良いが、STREETやかたまりとしてのライティングも大切。市街地に巨大なビルができ、ライティングされたものを見えなくしているのが残念。ピーナスブリッジからのタワー、ポートアイランドからのいかり山など。(60代男性・長崎市)
- 南京町街の 何処から来ているのか知りたいです。龍踊りは良かった。復興が早くびっくりしました。(60代男性・長崎市)
- 強行軍過ぎて、大変疲れました。(50代女性・長崎市)



旧居留地・海岸通



ハーバーランドより

## ⑥ 全体会議 2

---

日 時 : 平成11年10月11日(月) 10:00~11:30  
場 所 : 神戸市立博物館地階講堂  
参加人数 : 50人

- 2日間を振り返る(スライド上映)
- ▶ 地域分科会報告
- ▶ 代表者会議報告
- ▶ 開港5都市景観まちづくり会議神戸大会大会アピール





## 《スライド上映 / 2日間を振り返る》

曹 英生 / 神戸南京町景観形成協議会

地域分科会の報告の前に、会議の2日間の概要をスライドを上映しながら振り返った。



## □ 地域分科会報告

### ○ 地域分科会 A にぎわいのまちづくり = 歴史的環境と都市活動 =

報告者：佐久間 泰夫 / 旧居留地連絡協議会

ワークショップに先立ち、旧居留地のまちづくりについての説明のあと、実際にまちを歩き、参加者はまちの良いところや悪いところを写真を写していった。

本来、まちづくりはゆっくりやっていくものだと思うが、阪神・淡路大震災で100余棟のうち22棟が完全に倒壊し、またほとんどのビルが被災したため、復興に向けてかなり強引にハードにやってまちをつくってきた。しかし、ようやく一段落した今、これでいいのだろうか、何か欠けていることはないだろうかということが最近の我々の課題だったので、今回の分科会の意見は非常に参考になった。

#### ◇旧居留地の良いところ、悪いところ

参加者が撮った写真で良いところと悪いところをあげられたいろいろな意見を建物や空間やまちという視点から整理した。これまで復興に向けて一直線にまちづくりをしてきたので、特に悪いところが、こういうところを見落としてきたんだなととても参考になった。

#### ◇まちづくり提案

2班に分かれて、まちづくり提案がなされた。A班は①建物・施設、②外部空間、③ハードの仕掛け、④ソフトの仕掛け、⑤活動の5つの視点から、B班は①緑、②サイン・看板、③道のものの3つの視点から、意見が出された。

車の排気ガス対策に壁面緑化した駐車場や水辺空間などに関する提案は、我々が忘れていた問題で参考になった。

#### ◇まとめ

最後に、産業技術短期大学の児玉先生が、①空間の演出、②憩いの空間—アメニティを高める、③ソフト戦略という視点から、まちづくり提案について総合的にまとめがなされた。

旧居留地は、例えばディズニーランドのような観光地(スポット)ではなく、都市型観光地(まち)をめざして、今回の意見を参考にまちづくりに取り組んでいきたいと思う。

## ○ 地域分科会 B まちのアイデンティティ = 居住文化と商業・観光活動 =

報告者：若山 晴洋／北野・山本地区をまもり、そだてる会

まちのアイデンティティがテーマということで、阪神間住宅地のアイデンティティを参加者が共有できるように、谷崎潤一郎の足跡をたどりながら、岡本～魚崎を見学し、北野のトークイン会場にはいった。

谷崎がなぜ岡本に住んだのかということは岡本の住宅文化の良さといった岡本のアイデンティティとつながるところで、また、魚崎郷のまちなみ委員会の大石会長の酒蔵地域のまちづくりの話はこれからめざすべき酒蔵のまちのアイデンティティの話で、トークインに向けて有意義なタウンウォッチングだった。

トークインでは、武庫川女子大学のたつみ都志先生と高田公理先生に問題提起をしてもらい、その後各都市の人を交えて議論した。分科会のテーマがまちのアイデンティティで、副題として居住文化と商業・観光活動とあり、北野町もそうだが、まちのアイデンティティとして培われてきた居住文化と商業活動のあり方をどう調和していくかということが近年問題になっているので、そういったことに話が及ぶと思っていたが、まちのアイデンティティについては議論が白熱し、商業活動については十分にできなかった。

### ◇問題提起

高田先生から、新しいまちをつくるときに故郷来歴を大切に、そうしたものをベースにしてまちをつくれないうかが問題提起された。

たつみ先生からは、都市計画をする際に、まちづくりに関わる人たちに文学やまちの歴史を勉強して、まちのアイデンティティについて考えて欲しいという意見が出された。

私自身も岡本を歩いて感じたこととして、かつてあった阪神モダニズムを代表する住宅が震災で倒壊し、ほとんど新建材のプレハブ住宅に建て替わってしまい、まちのアイデンティティが震災でかなり希薄になってきており、このままの流れでいけばなくなってしまうのではないかと思った。

### ◇議論

問題提起を受けて、各都市の人たちを交えて以下の視点から議論がなされた。

①建築の色や素材、関東と関西の土の色の違い

②まちと作家

いかにまちのアイデンティティとしてそこに住む人に周知させていくかが難しい。

③まちと緑

どこのまちでも共通の問題で、緑をまもることについては、住民と行政の連携が必要である。

④まちのアイデンティティをつくるための各都市の取り組み

住民と行政の協力体制のもとでの取り組みが紹介された。

⑤まちと暮らし

最近の若者は、アイデンティティとは無縁なコンビニやファミリーレストランのあるまちが住みやすいと考えている。

⑥まちのアイデンティティ

アイデンティティはまちにあるのではなく、住む人の中にあるものであり、自分のまちに愛着を持つ、誇りを持つことが重要である。

### ◇まとめ

まちのアイデンティティは、従来の上意下達型のまちづくりではできず、そこに住む人々がつくりあげていくものである。

文学にあらわれるまちのアイデンティティを大事にしていきたい。

## ○ 地域分科会 C 動のまちづくり =外国文化と産業共生=

報告者：湛 沛綸 / (前)マイターン代表、分科会C講師

タウンウォッチングでは、トアガーデンに集合し、トアロード地区まちづくり協議会の村上さんの説明で、北野工房のまちからクラフトアートフェアが開催中のトアロードを歩いていき、旧居留地15番館を見学し、それから神戸市立博物館の「神戸・横浜開化物語」を見学した後、人でごったがえす南京町へは行った。

昼食後、南京町の老舗民生でシュウマイづくりを体験した後、南京町の事務所でインターネットのホームページ開設とインターネット上での物販の仕方について解説された。

ワークショップでは、それぞれのテーマについて各都市の方に発言してもらおうという参加者全員によるフリートーキングという形で、意見交換が行われた。

### ◇祭り・イベントの文化の育成

まちはテーマパークではなくて、生活の場所、コミュニティであるにとらえ、イベントは生活の延長線上であるにとらえているまちもあった。

イベントには集客型のイベント、体験型イベント、鑑賞型イベントがあるが、まちにはそれぞれの生活があり、その生活に根付いたイベントであることが必要で、まちにとってそれぞれイベントの位置付けは違ってくる。

### ◇リピーターを呼ぶ仕掛けづくり

これからは、非日常性、異空間の中での体験型イベントによってリピーター（ファン）をつくる必要がある。

地元の人が少ないということはリピーターが少ないということである。

地元で意見を聞くだけでなく、ライバルと目されるまちで外から見た批評も聞いて、自分たちのまちをしっかりと見据えて、自分たちのまちを見失わないようなまちづくりをしていく必要がある。

地元の人と来街者の両方に配慮したまちづくりを考えていく必要がある。

### ◇まちづくりと活動資金

行政から支援を得るためにはアピールが必要であるとのことだが、中国文化を含む外国文化はアピール力があると思う。

行政としては、支援するためには、一部の意見ではなく地元の多くの人々が参加している、地元にとれくらの熱意があるか、広範囲な効果が期待できるかがポイントとなる。

### ◇人的資源の育成

まず自分たちがまちづくりを楽しむことが重要で、そうすれば下の者もついてくる。

若い人と一緒にまちを体験することによって、まちに愛着を持ってもらうことが大事である。

若い人にイベントを任せて、年輩の者がそのサポートにまわり、イベントの運営を任せることによって外部とのつながりや内部組織の活性化に役立ち、次の人材育成につながっている。

### ◇まとめ

まちそれぞれに事情があり、まちそれぞれの方法があるので、各まちでそれぞれの個性を保ちながら、こうした会議等で得られるそれぞれのまちの経験を参考にしながら、活かしていくことが大切である。



## □ 代表者会議報告

報告者：倉橋 正己／神戸市アーバンデザイン室長

- \* 開港5都市景観まちづくり会議規約について
- \* 開港5都市景観まちづくり会議神戸大会大会アピールについて
- \* 来年度開催都市（長崎市）について

### 開港5都市景観まちづくり会議規約

#### (名 称)

第1条 本会議の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議」(以下「景観まちづくり会議」という)と称する。

#### (目 的)

第2条 景観まちづくり会議は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸及び長崎の5都市(以下「開港5都市」という)の市民が、景観、歴史、文化、環境などを大切にまもり、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力あるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資することを目的とする。

#### (活 動)

第3条 景観まちづくり会議は、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

- (1) 情報の交換
- (2) 共通の課題に対する調査研究
- (3) その他、前条の目的達成に必要な活動

#### (組 織)

第4条 景観まちづくり会議は、開港5都市のまちづくりを実践する市民団体等で構成する。  
2 必要に応じ、関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。

#### (会 議)

第5条 景観まちづくり会議の会議は、定期大会及び代表者会議とする。  
2 定期大会は、原則として年1回会長が召集し開催するものとし、代表者会議は、会長が必要に応じ召集することができる。

#### (役 員)

第6条 景観まちづくり会議に会長を置く。  
2 会長は、定期大会開催都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等の代表者をもってこれに充てる。  
3 会長は、本会議を代表し、会務を総理する。  
4 役員の任期は、定期大会終了から次期定期大会終了までの間とする。

#### (事務局)

第7条 景観まちづくり会議の事務局を会長都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等に置く。

#### (規約の改正)

第8条 本規約の改正は、景観まちづくり会議の代表者会議の議決によらなければならない。

#### 附則

本規約は、平成11年10月11日から施行する。

## □ 開港5都市景観まちづくり会議神戸大会大会アピール

野澤 太郎／開港5都市景観まちづくり会議 神戸大会実行委員会 委員長

### 開港5都市景観まちづくり会議神戸大会 大会アピール

折しも居留地が返還されて100年の節目にあたる1999年、秋、  
開港という歴史と国際性を共有する5つの都市の市民が、ここ神戸に集い、  
“開港都市の未来(あした)を探る／共生する地域文化”を基本テーマに、  
熱く語りあった。

これまでの100年を振り返る一方で、  
この資産を礎に、次なる100年に思いを馳せた。  
過去5回にわたって引き継がれてきたこの会議では、  
5都市の市民が交流を深め、  
その刺激を各地におけるまちづくり活動にと昇華してきた。  
本大会も、明日からの我々の活動に大きな示唆を与えてくれたと確信する。

5年前、この地、神戸は大震災に見舞われ、  
安全・安心なまちづくりの重要性を再確認するとともに、  
成熟したまちとは、個性的で自律するまちであることを、  
復興の過程で学んだ。

そしてこれは、  
私達、市民の主體的な取り組みと連携があつてこそ実現するものである。

さらに、こういったまちとまちの、あるいは都市と都市の個性が  
互いに魅力を研きあうとき、各々の発展を持続可能とするし、  
真の安全も確保しうる。

このような認識に立ち、  
今日、ここに集った我々は、本大会の成果を各自のまちに持ち帰り、  
豊かなまちづくりに向けての努力を各々の地で継続していくことを

互いに確認し、宣言する。

再び会することを約して。

1999年10月11日

開港5都市景観まちづくり会議神戸大会 参加者一同

2000年

長崎で会いましょう

# 復興・神戸の魅力アピール

江戸時代に開港した函館、新潟、横浜、神戸、長崎で、それぞれまちづくりの取り組みが約四十団体が集まり十月九日に神戸市内で「開港5都市景観まちづくり会議神戸大会」(実行委員会主催)を開く。

テーマ別の分科会のほか、神戸の町並みを歩いて魅力を探るイベントもあり、震災から復興する神戸の魅力を広げよう。

五都市が持ち回りで開催しており、今回二週目。旧居留地連絡協議会や神戸南京町景観形成協議会などが実行委員会をつくった。

これまでは、それぞれの都市でまちづくりに関する活動報告だったが、今回は、今後のまちづくりについて話し合う。

初日の全体会議では、映画監督の大森一樹さんが発表してきた作品のなかから、神戸で撮影した思い出深い作品を編集し、映像を流しながら記念講演する。二日目は、旧居留地をテーマにした「にぎわいのまちづくり」の酒蔵が並ぶ東灘をテーマにした「まちのアイデンティティ」のロードや北野をテーマにした「動のまちづくり」の三分科会がある。いずれも、実際に街を歩いて、それぞれの今後の方性を探る。

最終日は開催中の「神戸・ファズストリート」「神戸居留地巡遊」00年祭フェスティバル、ミニマーケット、ウィークなどを楽しめながら、地図を手に歩く「ウォークアット」や、神戸の夜景が楽しめるスポットを訪ねる「ライトスケイプTOUR」など、各分科会の成果を報告する全体会議などが開かれる。

実行委員会は、講演会や分科会、各分科会の成果を報告する全体会議などが開かれる。

では、講演会や分科会、各分科会の成果を報告する全体会議などが開かれる。

## まちづくり40団体集合

10月9日 10時から3日間 イベントや分科会

江戸時代開港

神戸新聞 (1999年9月24日)

## 開港5都市景観まちづくり会議 神戸大会の一般参加者募る

来月9日、通商条約で開港した五都市のまちづくりを考える「開港5都市景観まちづくり会議神戸大会」が十月九日、神戸市で開かれる。

函館、新潟、横浜、長崎と神戸の五都市のまちづくりに取り組む約四十の市民団体が、互いの活動を報告し交流する。六回目の今年

は、居留地返還百周年にあたることから、「開港都市の未来(あした)を探る」をテーマに、まちの魅力やまちづくりの今後を議論する。

大会では、芦屋市在住の映画監督、大森一樹氏が「開港都市文化と市民活動」をテーマに記念講演。旧居留地や南京町、北野・山本地区を散策し、料理体験や議論をする地域分科会や、神戸のまちなみや夜景のタウンウォッチングなどもある。最終日、大会宣言を採択する。

記念講演、分科会ともに一般参加者を募集している。

神戸新聞 (1999年10月10日)

都市と映画とのかわりについて話す大森一樹監督  
＝神戸市中央区



## 魅力ある街並み目指し まちづくり会議開幕

幕末の修好通商条約により開港した神戸や横浜など五都市の市民団体が集う「開港5都市景観まちづくり会議神戸大会」(神戸新聞社主催)が九日、神戸市中央区の相楽園会館で開幕した。今年も条約改正から百年、会議は「開港都市の未来(あした)」をテーマに、十一日まで市内各地でフォーラムやタウンウォッチングなどを開催。魅力ある都市像や景観形成などについて語り合う。

同会議は、一九九三年秋に神戸で初めて開催。函館や新潟、長崎など五都市の市民団体が、互いに開港地としての歴史や文化を尊重し、街並みや都市景観の形成への取り組みを報告するなど、毎年持ち回りで会合を開いている。

初日は総会では、大会実行委員長の野澤太郎・旧居留地連絡協議会会長が「復興に努力してきた神戸で、開港都市の将来へ向けた活発な議論を」とあいさつ。各都市の市民団体が活動を報告した。

続いて、映画監督の大森一樹さんが「開港都市文化と市民活動」と題し記念講演。神戸を舞台に数多くの映画を撮っている大森さんは「007は二度死ぬ」や「風の歌を聴け」など神戸がロケ地になった映画のシーンやビデオで放映しながら、都市と映画の関係について解説した。

大森さんは「映画にとっても、どの街を舞台に選ぶかは大切。私は映画を通して神戸にアプローチしてきた」と語り、市民がさまざまな形で都市とかわり合うことで文化がつけられていくと思ふ」と語った。

申し込み・問い合わせは二十七日までに、同大会事務局078・3322・5484。



まちづくりの課題を話し合った地域分科会  
＝神戸市中央区北野町2



## 居住環境など

幕末の修好通商条約により開港した神戸、横浜、長崎などの市民団体が集う「開港5都市景観まちづくり会議神戸大会」(神戸新聞社など後援)は10日、大会二日目を迎え、地域分科会や街並み見学会などが市内各地で開かれた。居住環境と商業・観光・外国文化と産業共生など、まちづくりを進める上での課題について、ワークショップや討論会などを通じ、活発な議論を繰り広げた。

地域分科会は「にぎわいのまちづくり」「まちのアイデンティティ」「動のまちづくり」の三つのテーマに分かれて開催。このうち「アイデンティティ」は、阪神間に焦点を合わせ、居住環境と商業環境の調和や調整のあり方などについて意見交換した。午前中は文豪・谷崎潤一郎ゆかりの東灘区・岡本や住吉、魚崎界隈を見学。午後は会場を北野異人館街に移し、武庫川女子大のたつみ都志教授と高田公理教授をゲストに、各都市の共通課題でもある居住環境と商業活動の調和について論

議した。高田教授は「この土地にも、歴史や風土を思い起こさせてくれる場所がある。コミュニティづくりや都市整備を考える上で大切」と指摘。たつみ教授は「建築や都市計画の専門家は地域の歴史や文学などソフト面をもっと勉強してほしい」と注文した。参加者からは「住民のまちへのこだわりが行政を動かす力になる」「地域の色を大切にしたいまちづくりを」との意見が出た。

### 居留地返還100周年

#### 各市の研究者らで

#### 開港場フォーラム

居留地返還百周年記念の特別展「神戸・横浜・開化物語」が開催されている神戸市中央区の市立博物館で、幕末に開港した神戸、横浜、大阪、長崎から研究者が参加して「開港場フォーラム」が開かれた。梅浜淳・大阪大名誉教授が「外国人と日本の近代化」と題して講演。続いて市立博物館の田井玲子学芸員ら四人が各居留地の概要

# まちづくりの課題論議

開港5都市  
大会2日目

や特色を解説した。最後に、パネルディスカッションが行われ、外国人居留地が日

本の近代化に果たした歴史的役割などについて、熱心な議論が展開された。特別展最終日の十一日は午後一時から同博物館で、四都市の居留地研究会が合同研究会を開く。無料(入館料は別に必要)。

## 大会アピールを採択

### 開港5都市景観会議閉幕

神戸大会

幕末に開港した神戸、横浜、長崎など五都市の市民らが集う「開港5都市景観まちづくり会議神戸大会」(神戸新聞社など後援)は最終日の十一日、全体会議を開き、「市民の主体的な取り組みと連携で、豊かなまちづくりへ努力を」とす大会アピールを採択、閉

境と都市活動「居住文化と商業・観光活動」「外国文化と産業共生」の各テーマで繰り広げられた地域分科会の内容が報告された。この後、大会実行委員長で旧居留地連絡協議会の野澤太一郎会長が「豊かなまちづくりへの努力を各々の地に継続していくことを互いに確認する」とする神戸大会アピールを読み上げ、参加者が拍手で承認。長崎での再会を誓った。



全体会議2の挨拶で、2000年、長崎での会議開催を宣言する橋田克男氏(長崎市/山手地区景観まちづくり協議会)